



■ * 都市デザイン計画 《未策定》

4 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち

基幹計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「めざすべきまちの姿」の評価

めざすべきまちの姿
 わたしたちは、逗子が持つ豊かな自然環境やコミュニティの質の高いまちを未来に継承していきます。そのため、土地利用の基本方針を尊重し、社会ニーズを的確にとらえ、長期的な視点に立った都市のデザインを描いて、計画的なまちづくりを進め、誰もが安全で安心して快適に暮らせるまちをめざします。

◇市の評価

8年間の取り組みに係る総括コメント		基幹計画の評価
・5つの個別計画のうち、策定されている計画は4つである。 ・5つの計画については、全て前年度と変わらない評価だった。 ・総括としては、「めざすべきまちの姿」に向けたこの間の取り組みの達成状況は十分とは言えない。しかしながら、個別事情を抱え、進捗が順調とみなせない事業もあるため、安全で安心な、快適な暮らしを支えるまちを目指すに当たり、効果的な手法を検討するなど、各々の事情に合わせて取り組みを推進する必要がある。		(8年間の取り組みに係る総括評価)
		△

◇基幹計画に位置づけられる個別計画の「個別計画の評価1」の結果

1 良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち	2 災害に強く、犯罪のない安全なまち	3 歩行者と自転車を優先するまち	4 都市機能の整った快適なまち	5 地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち
住環境形成計画	安全安心アクションプラン	歩行者と自転車を優先するまちアクションプラン	* 公共施設等 総合管理計画(未策定)	* 商工業振興計画・小坪海浜 地域活性化計画(未策定)
B	B	C	B	

◇審議会・懇話会等の意見／【Check】の観点からの意見等

<審議会・懇話会等総括意見>	審議会等が妥当と考える評価区分

<各個別計画の評価状況についての意見>

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<計画の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

<基幹計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

■第4節 取り組みの方向1

計画名:住環境形成計画

良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの 方向	土地利用の基本方針にうたわれた理念の実現を図るため、逗子が潜在的に持つ優れた価値と原風景を再認識し、大局的長期的視点に立ち、住む人にも訪れる人にも優しく、にぎわいとくつろぎ、そして安らぎが生まれる人間らしいスケールのまちをめざします。 基本的に低層のまち並みの形成を基盤とする中で、地域ごとの整備方針に基づき、地域のまちづくりを進めます。
-------------	--

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る総括コメント	目標1、目標4のように市が主体的に取り組む事が出来る目標については、達成することができたが、目標2、目標3のような、住民主体の取り組みや市民意向が伴うものについては、社会情勢や経済状況の変化により、実現することが困難であった。	個別計画の評価1 (8年間の取り組みに係る総括評価)	Ⓑ
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)	目標3については、検討の結果導入できなかったことは理解できるが、目標2については、計画提案されない原因を分析し、市民提案が適切に活用される改善を行うことが望ましかった。	審議会等が妥当と考える評価区分	Ⓑ

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分	B
---------------------	---	-----------------	---

②目標【2022年度】に対する評価

目標1	★中期実施計画に向けた土地利用方針が決定されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	都市計画基礎調査を5年おきに実施	平成28年度基礎調査実施のための基本図修正を実施	都市計画基礎調査を実施	都市計画基礎調査の分析・検討を実施	都市計画基礎調査の分析・検討を実施
実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	都市計画基礎調査の分析・検討を実施	都市計画基礎調査の分析・検討を実施	都市計画基礎調査の分析・検討を実施	市民意向調査を実施	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標2	★地区まちづくり計画が3箇所策定されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	策定されていない。	策定されていない。	策定されていない。	策定されていない。	策定されていない。
実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	策定されていない。	策定されていない。	策定されていない。	策定されていない	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 3	★都市計画(用途地域)による、敷地面積の最低限度の基準を導入し、運用する。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	導入していない。	導入していない。	導入していない。	導入していない。	導入していない。
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	導入していない。	導入していない。	導入していない。	導入していない	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 4	★まちづくり条例の改正による新たなまちづくりの方向性が提示されている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	2014 年 4 月 一部改正済	2014 年 4 月 一部改正済	2016 年 12 月 一部改正	2016 年 12 月 一部改正済	2016 年 12 月 一部改正済
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	2016 年 12 月 一部改正済	2016 年 12 月 一部改正済	2016 年 12 月 一部改正済 2022 年度一部改正に 向けて、各審議会等 にて意見交換を実施	2022 年 12 月 一部改正	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

住環境形成計画



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	<p>土地利用の基本方針にうたわれた理念の実現を図るため、逗子が潜在的に持つ優れた価値と原風景を再認識し、大局的長期的視点に立ち、住む人にも訪れる人にも優しく、にぎわいとくつろぎ、そして安らぎが生まれる人間らしいスケールのまちをめざします。</p> <p>基本的に低層のまち並みの形成を基盤とする中で、地域ごとの整備方針に基づき、地域のまちづくりを進めます。</p>
---------	---

施策体系別評価による総括コメント		審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)	
土地利用方針の調査検討及び空き家解消事業については、年度別計画の目標を順調に遂行し、現状課題を整理したうえで新たな提案等を行うことができた。計画的なまちづくり推進事業については、各自治会等の地域課題に対する相談を受け、助言や提案を行ってきたが、まちづくり協議会の発足をすることができず、地区まちづくり計画の策定も行うことができなかった。		土地利用方針の調査検討及び空き家解消事業は、目標に対する取り組みについては概ね適当である。計画的なまちづくり推進事業では、目標を達成できなかった理由を分析し、改善に努めてもらいたい。	
個別計画の評価2(施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分	B

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	a (a)	土地利用方針の調査検討	都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定のため、これまでに行った調査結果やそれに対する分析に加え、市民意向調査等を実施した。				特になし
2	c (c)	計画的なまちづくり推進事業	社会情勢の変化に対応したまちづくり3条例の改正を行うことができたが、まちづくり協議会の発足及び支援が出来なかった。				地区まちづくり計画が提案されない原因を分析し、市民提案制度が適切に活用されるような仕組みを検討し、改善されたい。
3	a (a)	空き家解消事業	成約件数:29件 令和4年度から実施した空き家アドバイザー派遣事業は好評だったものの、空き家流通促進モデル補助事業が低調だったことを受けて、補助額の要件の見直しを行った。				単純な空き家の解消件数だけではなく、荒廃等が進み改善すべき優先順位が高い空き家をランク付けし、その解消度合いを評価する方法を検討されたい。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

各事業の評価は、概ね適当である。

計画的なまちづくり推進事業については、適切な事業の推進並びに、今後、社会情勢等の変化に応じた目標設定と市民提案制度に対する改善が求められる。

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

特になし。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

計画的なまちづくり推進事業については、市民提案がされなかった原因を分析し、活用されるような仕組みを検討されたい。

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

今後の計画及び各事業の推進にあたっては、社会情勢等の変化に応じた適切な目標設定や取り組みの見直し求められる。

住環境形成計画

【事業進行管理表】



事業名		土地利用方針の調査検討			
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち			
4-1 1		1 良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち			
所管名	1510	環境都市課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 16,000千円
事業概要	目的	商業地における住宅の在り方も含め、人口減少時代のあるべき土地利用の方針を検討する。			
	対象	市内土地建物			
	手段	都市計画基礎調査の結果を踏まえ、他の行政計画との整合が図られるよう検討を進める。			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
	・都市計画基礎調査の分析・検討 ○土地利用方針の検討	→→→→→ ○土地利用方針の決定	○都市計画基礎調査の実施(5年毎) ・都市計画基礎調査の分析・検討 ○土地利用方針の検討	→→→→→ →→→→→	
	目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】		
	中期実施計画に向けた土地利用方針が検討されている。		前期実施計画策定中		

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 14,343,677 円

実施結果	これまでに決定した土地利用方針を踏まえて、令和5年度に都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を策定するため、令和3年度に行った都市計画基礎調査の結果分析や、市民意向調査等を実施した。	
反省点・問題点		工夫している点

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
土地利用方針については、令和元年度に実施された総合計画の見直しに伴い、修正、決定済みである。	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

特になし	審議会等が妥当と考える評価区分
	(a) 本事業の目的は達成できた

住環境形成計画

【事業進行管理表】



事業名		計画的なまちづくり推進事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な快適な暮らしを支えるまち		
4-1 2		1 良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち		
所管名	1520 まちづくり景観課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 10,588 千円
事業概要	目的	まちづくり活動に対する市の支援方法を確立し、地区のまちづくりの計画づくりを支援する。		
	対象	市民及び事業者		
	手段	条例に基づくまちづくり協議会等を支援する。敷地面積の最低限度の基準を導入し、運用する。状況の変化に対応したまちづくりの方向性を模索し、まちづくり条例の改正等を行う。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○改正まちづくり条例の運用	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○状況の変化に対応したまちづくりの方向性の検討	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○敷地面積の最低限度の基準の導入・運用	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○まちづくり協議会等への補助	→→→→→	→→→→→	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
地区まちづくり計画が3箇所策定されている。			策定されていない。	

＜2022年度 進捗状況＞		事業費(2022(令和4)年度実績額)	円
実施結果	<p>○まちづくり条例の改正について、現況の変化に対応したまちづくりの方向性と併せて検討を進め、12月に改正を行った。</p> <p>○敷地面積の最低限度の基準の導入・運用については、一律の数値基準の方針を改め、地域ごとの必要性に応じて、地域住民の理解を得て進めていくことになった。(2018年決定済事項)</p> <p>○まちづくり協議会については、発足することができなかった。</p>		
	反省点・問題点	工夫している点	<p>各自治会等の地域課題に対する相談を受け、助言や提案を行ってきたが、まちづくり協議会を発足するような動きには繋がらなかった。</p>

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
地区まちづくり計画が策定されていない	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

＜審議会・懇話会等の意見＞

地区まちづくり計画が提案されない原因を分析し、市民提案制度が適切に活用されるような仕組みを検討し、改善されたい。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(c) 本事業の目的は達成できなかった

住環境形成計画

【事業進行管理表】



事業名		空き家解消事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-1 3		1 良好な住環境の形成により、くつろぎが生まれるまち		
所管名	1520 まちづくり景観課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 0千円
事業概要	目的	住宅ストックの安定的な流通・活用を促進することで、人口減少社会に資する生活環境の健全化をめざす。		
	対象	市内の不動産所有者、空き家の利用希望者		
	手段	適正管理、予防、相談及び利活用の4つの観点をもって関係機関等と連携を図りながら総合的に施策を展開する。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○空き家の適正管理に係る指導	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○空き家バンクの運営	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○地域住民と連携した空き家の実態把握・利活用の啓発	→→→→→	→→→→→	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
空き家バンクによる成約件数延べ20件			0件	

＜2022年度 進捗状況＞		事業費(2022(令和4)年度実績額)	円
実施結果	<p>○空き家の利活用を促進させるため、宅建協会及び行政書士会と協定を締結し、2019年から空き家バンクを運用している。利用登録者は152名、物件は37件の登録があり、累計29件の空き家の解消があった。(2022年3月31日現在)</p> <p>○通報があった計44件の空き家について、42件については適正管理に向けた通知を行った(対応済:24件、通知後反応なし:18件)</p> <p>○(株)パブリックサービスと連携し、市民貢献事業として利用者に対する「活用支援助成」と所有者に対する「新規登録支援助成」を実施した。(実施件数:活用支援2件、登録支援5件)</p> <p>○民間団体と協力し、亀ヶ岡自治会、新宿自治会における空き家調査を実施し、個別相談会セミナーやセミナーを開催した</p> <p>○空き家アドバイザー派遣制度を実施(11件)し、流通促進モデル事業として助成金を交付し1件の解消に繋がった。</p>		
反省点・問題点	令和4年度から始動した空き家流通促進モデル補助事業による空き家の解消が1件と低調だった。当該事業をもっと広める活動を行ったり、事業内容について検討する必要がある。	工夫している点	空き家流通促進モデル補助事業が低調だったことを受けて、補助額の要件の見直しを行った。

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
空き家バンクによる空き家の解消件数:29件	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

＜審議会・懇話会等の意見＞

単純な空き家の解消件数だけでなく、荒廃等が進み改善すべき優先順位が高い空き家をランク付けし、その解消度合いを評価する方法を検討されたい。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(a) 本事業の目的は達成できた

■第4節 取り組みの方向2

計画名: **安全安心アクションプラン**

災害に強く、犯罪のない安全なまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの 方向	<p>高齢化が進む住宅都市として、「自らの命は自ら守る。皆のまちは皆で守る。」という意識の浸透、自主防災組織の充実及び避難行動要支援者に対する地域での助け合いの取り組み等を広げ、市民自らの防災力の向上を図ります。さらに、情報伝達体制の整備や津波対策の充実、河川の改修等を進め、地震や大雨等の自然災害に強いまちづくり、狭あい道路の整備や消防力の充実など都市災害を防ぐまちづくりを進めます。</p> <p>また、市民一人ひとりの防犯意識の向上を図り、地域の安全は地域で守るという意識を高め、防犯環境に配慮した環境整備を図り、誰もが安心して暮らすことができる、犯罪の起きにくいまちづくりをめざします。</p>
-------------	---

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る 総括コメント	<p>総括的には目標数値に達成している事業と未達成の事業があり、未達成事業にあつては、計画的に進められていない現状があり、関係機関と連携を図り、より一層の努力が必要である。</p>	個別計画の 評価 1 (8年間の取り組みに係る 総括評価)	Ⓑ
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)	<p>避難行動要支援者支援事業については、個別支援プランの作成が予定通り進んでいない。</p> <p>防犯対策事業については地域安心安全情報共有システムの防犯情報の登録者数が目標数値を上回り、順調に進められている。</p>	審議会等が 妥当と考える 評価区分	Ⓑ

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	B	審議会等が 妥当と考える 評価区分	B
---------------------	---	-------------------------	---

②目標【2022年度】に対する評価

目標 1	★避難行動要支援者の個別支援プランが 30 パーセント作成されている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	個別支援プランの作成の支援に着手していない。	個別支援プラン作成の構築にあたり地域と情報共有を行った。	個別支援プランの作成支援は未着手。対象者の名簿を作成し、同意確認を実施した。	自主防災組織等 91 団体のうち、6 団体 32 名の個別支援プランが提出され 0.86 パーセント達成されている。	同意者数 2,659 名に対し、個別支援プランが提出されているのが 55 名により、約 2.1%である。
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	/
	同意者数 2,245 名に対し、個別支援プランが提出されているのが 145 名により、約 6.5%である。	同意者数 1,888 名に対し、個別支援プランが提出されているのが 167 名により、約 8.8%である。	同意者数 1,679 名に対し、個別支援プランが提出されているのが 175 名により、約 10.4%である。	同意者数 1,490 名に対し、個別支援プランが提出されているのが 190 名により、約 12.8%である。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 2	地域安心安全情報共有システムの登録者数が 14,000 人になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	11,132 人	11,820 人	12,520 人	13,312 人	14,144 人
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	16,631 人	17,462 人	18,266 人	18,657 人	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 3	★地域安心安全情報共有システムの防犯情報の登録者数が 10,000 人になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	8,979 人	9,562 人	10,233 人	10,959 人	11,706 人
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	13,852 人	14,683 人	15,450 人	15,805 人	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 4	自主防災組織の加入率が 80 パーセント以上になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	73.74%	73.65%	74.00%	74.09%	74.17%
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	73.57%	72.38%	72.19%	71.54%	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 5	(仮称)安全安心アクションプランが策定されている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	策定に着手していない。	策定に着手した。	安全安心に関する懇話会を設立した。	安全安心アクションプランを策定した。	策定済み
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	策定済み	策定済み	策定済み	策定済み	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 6	田越川準用河川未整備区間の改修工事に着手している。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	田越川準用河川未整備区間約 140m	田越川準用河川未整備区間約 140m	田越川準用河川未整備区間約 140m	田越川準用河川未整備区間約 140m	田越川準用河川未整備区間約 140m
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	田越川準用河川未整備区間約 140m	田越川準用河川未整備区間約 140m	田越川準用河川未整備区間約 140m		
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 7	防犯活動団体の数が 95 団体になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	95 団体	95 団体	96 団体	97 団体	96 団体
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	96 団体	96 団体	96 団体	95 団体	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

■安全安心アクションプラン



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取 組 み の 方 向	<p>高齢化が進む住宅都市として、「自らの命は自ら守る。皆のまちは皆で守る。」という意識の浸透、自主防災組織の充実及び避難行動要支援者に対する地域での助け合いの取り組み等を広げ、市民自らの防災力の向上を図ります。さらに、情報伝達体制の整備や津波対策の充実、河川の改修等を進め、地震や大雨等の自然災害に強いまちづくり、狭あい道路の整備や消防力の充実など都市災害を防ぐまちづくりを進めます。</p> <p>また、市民一人ひとりの防犯意識の向上を図り、地域の安全は地域で守るという意識を高め、防犯環境に配慮した環境整備を図り、誰もが安心して暮らすことができる、犯罪の起きにくいまちづくりをめざします。</p>
----------------------------	---

施策体系別評価による総括コメント		審議会・懇話会等の総括意見（個別計画の懇話会等が作成）	
<p>避難行動要支援者支援事業については、個別支援プランの作成が予定通り進まない状況であった。</p> <p>防犯対策事業については地域安心安全情報共有システムの防犯情報の登録者数が目標を上回っており、順調に進捗している。</p> <p>津波避難ビルは、令和元年度2施設、令和2年度1施設の3箇所の増に留まった。</p>	B	<p>避難行動要支援者支援事業について、個別支援プランの作成が目標未達成であるが、地域の防災力が強化され共助に対する住民の意識向上が図れたと判断される。また、防犯対策事業については、地域安心安全情報共有システムの防犯情報の登録者数が目標を上回ったことより、施策体系を総括すると、ある程度の目標達成ができたと考えられる。</p>	B
個別計画の評価2(施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分	B

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	c (c)	避難行動要支援者支援事業	・同意者数1,490名に対し、個別支援プランが提出されているのは190名で、作成率は約12.8%に留まり、目標数値には至らなかった。			1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・作成率向上のためには、新たな取り組みが必要ではないか。 ・反省点・問題点として挙げた事項とその対応策を見直して、その結果として得られた対応策を取組内容に反映し実施しては如何か。
2	a (a)	防犯対策事業	・地域安心安全情報共有システムの防犯情報の登録者が令和3年度末現在15,450人となり、令和4年度末では、15,805人まで増加し、2022年度目標を上回った。	1		(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月10日全国防犯の日のアピールを一層実行すべく逗子防犯協会は、逗子警察署と逗子市の協力のもと8地区を青パト及び防犯チラシを各戸ポストインしているが、犯罪撲滅に反映しないジレンマがある。
	c (b)		<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難ビルは、令和元年度2施設、令和2年度1施設の3箇所の増に留まった。 ・関係機関と協定締結し、妊産婦・乳児福祉避難所1箇所を新設した。 			1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・一時避難である事を、ビルの住人も市民も理解していないのではないかと、丁寧な説明が必要ではないか。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)



安全安心アクションプラン

事業名 避難行動要支援者支援事業					
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち			
4-2 1		2 災害に強く、犯罪のない安全なまち			
所管名	1140	防災安全課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2019～2022年度】 10,500千円	
事業概要	目的	災害発生時における避難行動要支援者への支援を適切かつ円滑に実施するために策定された避難行動要支援者避難支援計画に基づき、避難行動要支援者の自助及び地域(近隣)の共助を基本とした避難支援体制の整備を図ることにより、地域の安全・安心体制を強化する。			
	対象	避難行動要支援者、自主防災組織等、地域住民、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、基幹相談支援センター、相談支援事業所、避難行動要支援者の関係団体、消防本部及び警察			
	手段	避難行動要支援者の名簿を作成する。同名簿の登載者のうち、同意が取れた者について自主防災組織等及び関係機関等に情報提供を行う。地域自主防災組織等は、民生委員・児童委員等の協力を得ながら個別支援プランを作成する。地域住民は、平常時には地域の避難行動要支援者に対して声かけや見守りを行い、災害時には個別支援プランに基づき避難支援を行う。また、災害時には避難行動要支援者の名簿情報を、同意の有るなしにかかわらず関係機関等に提供し安否確認や避難支援を行う。			
年度別計画		2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○避難行動要支援者台帳システムの整備・運用		→→→→→	→→→→→	→→→→→
	・維持管理、情報更新		→→→→→	・リース更新 →→→→→	→→→→→
	○自主防災組織等及び関係機関等への制度の周知・協力依頼		→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○自主防災組織等に対して避難行動要支援者の個別支援プランの作成依頼		→→→→→	→→→→→	→→→→→
○自主防災組織等が存在しない地区の個別プランの作成		→→→→→	→→→→→	→→→→→	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2019(令和元)年7月末】		
避難行動要支援者の個別支援プランが30パーセント作成されている。			個別支援プランの作成支援に着手していない		

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 2,166,355 円

実施結果	○避難行動要支援者台帳システムの運用により、避難行動要支援者名簿を作成し、各自主防災組織等、民生委員、社会福祉協議会及び逗子警察署へ配布した。(対象者3,011名のうち、同意1,490名、不同意121名、未確認1,400名) ・同意未確認者の対象者1,140名に対し依頼文を送付し、199通の回答があった。	
反省点・問題点	・自主防災組織や自治会・町内会への加入率が低いため、未加入者の支援を誰が行っていくのか検討するとともに、加入率を上げる地域づくりを関係所管と連携して行う必要がある。 ・自主防災組織等があっても要支援者の取り組みに後ろ向きな団体があり、本事業の重要性について周知を図る必要がある。・妊産婦と乳幼児(全体の約60%)は3年程度で入れ替わることから、支援等についても優先順位は低く、高齢者や障がい者を優先的に支援し個別支援プランを作成する地域が多いため、個別支援プランの作成率が伸びない。	工夫している点 地域の取組みには温度差があり、取り組みが遅れている組織には、先行事例や地域の実情、個々の事情にあわせた説明を行った。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
同意者数1,490名に対し、個別支援プランが提出されているのは190名であり、作成率は約12.8%に留まり、2022年度の目標数値には至らなかった。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

<審議会・懇話会等の意見>

<ul style="list-style-type: none"> ・同意者は受け身ではなく居住地域にたいして(自治会町内会)自らも存在をアピールできたらよいとおもうし、様々なタイプの住民も受け入れられる地域作りができるような学びあいが必要。 ・避難行動要支援者名簿を作成するにあたり、行政よりの説明不足と、避難行動要支援者を支援する関係団体等を含めて十分な説明会を開催をお願いしたい。自主防災組織では無理な所がある。 	審議会等が妥当と考える評価区分 (c) 本事業の目的は達成できなかった
--	--



安全安心アクションプラン

事業名 防犯対策事業				
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-2 2		2 災害に強く、犯罪のない安全なまち		
所管名	1140	防災安全課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2019～2022年度】 25,005千円
事業概要	目的	一人ひとりが「自分の安全は自分で守る」との意識を持ち、地域の安全は地域で守り、住民や事業者が地域の一員であることを自覚し、地域を守る活動に関わってもらう。		
	対象	市民		
	手段	警察、防犯関係団体と連携して防犯意識の向上に向けた広報・啓発を行う。市内で発生している犯罪状況、防犯情報を市と市民が共有する。地域住民等による自主的なパトロール活動を進めるための支援を行う。防犯物品の貸与、補助金等による支援を行う。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○逗子市防犯推進連絡協議会の開催	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○防犯ボランティア団体への支援	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	・自治会等への啓発・防犯物品の貸与	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○青色回転灯パトロールカーによる防犯活動の実施	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○地域安心安全情報共有システムの運用	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	・防犯情報の提供 ○防犯アドバイザーの設置	→→→→→	→→→→→	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2019(令和元)年7月末】	
地域安心安全情報共有システムの防犯情報の登録者数が10,000人になっている。			8,332人	

＜2022年度 進捗状況＞ 事業費(2022(令和4)年度実績額) 1,041,380円

実施結果	<p>・逗子警察署からの依頼を受け、犯罪発生及び防犯情報を、地域安心安全情報共有システム(防災・防犯メール)で配信し防犯意識の向上に努めた。</p> <p>防犯情報登録者数: 令和3年度末15,450人→令和4年度末15,805人(355人増)</p> <p>令和4年度防犯に関するメール配信実績</p> <p>逗子警察署の依頼や防犯の日(毎月10日)等を機会に、犯罪発生及び防犯情報を30件配信した。</p> <p>令和3年度から神奈川県警察本部が発表した逗子市内の不審者情報も配信し注意を促した。</p>	
	反省点・問題点	工夫している点
配信すべき情報の種類・内容・情報量等について、整理する必要がある。	毎月10日に、市民に気をつけていただきたい防犯情報をメールにて配信し、市民に広報した。	

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
地域安心安全情報共有システムの防犯情報の登録者が令和3年度末現在15,450人となり、令和4年度末では、15,805人とさらに増加し、2022年度の目標数値を上回った。	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

＜審議会・懇話会等の意見＞

<p>・目標数値(11,000人)を既に上回る15,805人の登録を済ませており、進捗状況は順調と思います。『反省点・問題点』に挙げた事項への対応をお願いします。</p> <p>・パトカーが出勤した時など、窓を閉めたりして用心しているが、何があったか、知りたいと思う事がある。</p> <p>・以前、逗子駅前で米兵があげられた事件があったと聞いている、そういう情報は注意報としてすぐに出してほしい。</p>	<p>審議会等が妥当と考える評価区分</p> <p>(a) 本事業の目的は達成できた</p>
---	--



安全安心アクションプラン

事業名 避難施設整備事業					
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち			
4-2 3		2 災害に強く、犯罪のない安全なまち			
所管名	1140 防災安全課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2019～2022年度】	7,080千円	
事業概要	目的	大規模災害時における避難場所を確保し、安全で安心なまちづくりを進める。			
	対象	市民、避難行動要支援者(乳児・妊産婦)			
	手段	民間企業に協力を求め、津波避難ビル、震災時避難所の増設を図る。 乳児・妊産婦のための福祉避難所を設置する。			
年度別計画		2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○津波避難ビルの協力の呼びかけ		→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○市内5商店街に対する震災時避難所の協力依頼		→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○福祉避難所(乳児・妊産婦用)設置に向けた神奈川県助産師協会へ協力要請		○福祉避難所(乳児・妊産婦用)の防災資機材整備	○市内5商店街に対する防災資機材整備	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2019(令和元)年7月末】		
津波避難ビル4箇所増設、震災時避難所4箇所増設、福祉避難所(乳児・妊産婦)1箇所新設			津波避難ビル27箇所、震災時避難所33箇所、福祉避難所(乳児・妊産婦)		

＜2022年度 進捗状況＞		事業費(2022(令和4)年度実績額)	円
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> 開発に伴う業者と津波一時避難場所としての協力を求め調整を進めたが、協定の締結には至らなかった。 福祉避難所(乳児・妊産婦用)設置に向け、神奈川県助産師協会、逗葉医師会及び聖和学院と協議を進め、協定の締結を行った。 		
反省点・問題点	津波浸水区域内の既存ビル等に津波一時避難ビルとして協定締結の依頼をしたが、拒否されている。	工夫している点	新築の建築物に積極的に要望をしている。

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
<ul style="list-style-type: none"> 津波避難ビルは、令和元年度2施設、令和2年度1施設の3箇所の増に留まった。 関係機関と協定締結し、妊産婦・乳児福祉避難所1箇所を新設した。 	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

＜審議会・懇話会等の意見＞

<ul style="list-style-type: none"> 一時避難である事をビルの住人も市民も理解していないのではないか、丁寧な説明が必要ではないか。 逗子市は老人・子どもの数と同じくらいペット飼育世帯が多いので対象にペット飼育者も含めてはどうか。 	審議会等が妥当と考える評価区分 (b) 本事業の目的は概ね達成できた
--	---

■第4節 取り組みの方向3

計画名：歩行者と自転車を優先するまちアクションプラン

歩行者と自転車を優先するまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	<p>自動車交通がもたらす交通事故や交通公害、混雑などを解決するためには、環境負荷の低減を図り、自動車の過度な利用を抑制し、公共交通機関や歩行者、自転車の安全性や利便性、快適性を高めることが必要です。</p> <p>わたしたちは、歩行者も自転車も優先することができる社会をめざすことにより、豊かで快適、安全な、生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)の高いまちづくりを実現します。</p>
---------	--

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る総括コメント	歩行者と自転車のまちを考える会主催での「逗子カーフリーデー」等のイベントの後援、市道に矢羽根・自転車ピクトグラムの設置等を行えたが、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかったこともあり、取組の達成状況は十分とは言えない。	個別計画の評価1 (8年間の取り組みに係る総括評価)	◎
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の削減やコロナ禍の影響もあり進捗が遅れているとはいえ、具体的方策を示せない状況が続いており、道筋が見えない。進行管理が機能していない。 ・折角懇話会(歩行者と自転車を優先するまちワークショップ)が開かれても、事後報告が多く、大きな方針の共有や、具体の施策についての議論されていない。 ・担当者は個別のタスクを一生懸命こなしているが、それらが大きく政策目標にどう結んでいるのかの体系的な確認もできていない。 ・改めて、ワークショップにおいて逗子市役所をはじめとした参加者で本政策の目的を再認識し、目標にむかってやるのかやらないのかを明らかにすべき時期にあると認識する。 	審議会等が妥当と考える評価区分	◎

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	C	審議会等が妥当と考える評価区分	C
---------------------	---	-----------------	---

②目標【2022年度】に対する評価

目標1	★限られた道路空間における、歩行者・自転車・自動車の共存の方策が実施されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	アクションプランの周知、啓発活動に取り組んだ。	カーフリーデー導入は、2016年度からとし目標達成に向けた準備を実施した。	雨天により中止となったものの、カーフリーデーを実施できる状態まで準備を進めた。	歩行者自転車WSメンバーとの共催で、カーフリーデーを実施した。	商業者との意見交換等は行ったものの、予算なしによりカーフリーデーは実施できず、歩行者・自転車・自動車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。
実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	/
	歩行者と自転車を優先するまちワークショップは実施できず、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。	歩行者と自転車を優先するまちワークショップは実施できず、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。	歩行者と自転車を優先するまちワークショップは実施し、自転車誘導マークの設置に向け協議をすすめたものの、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。	歩行者と自転車を優先するまちワークショップは実施し、自転車誘導マークの設置等はできたが、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 2	「まちづくりに関する市民意識調査」による居住地域の現在のイメージで、「歩行者や車イスの人が安全に出歩けるまち」が 10 パーセント以上になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	—	—	—	3.3%	3.6%
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	2.7%	3.7%	3.5%	3.3%	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

※「まちづくりに関する市民意識調査」は 2014 年度、2015 年度、2016 年度未実施。

目標 3	「まちづくりに関する市民意識調査」による居住地域の現在のイメージで、「自転車を利用しやすいまち」が 10 パーセント以上になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	—	—	—	7.25%	8.2%
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	6.7%	9.9%	6.0%	9.1%	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

※「まちづくりに関する市民意識調査」は 2014 年度、2015 年度、2016 年度未実施。

目標 4	自転車の走行位置を示す自転車誘導マークの主要道路への設置が 30 箇所になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	6箇所	6箇所	6箇所	6箇所	13 箇所
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	13 箇所	13 箇所	83 箇所	142 箇所	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 5	自転車・オートバイ駐輪場の収容台数が 3,700 台になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	3,106 台	3,336 台	3,350 台	3,448 台	3,448 台
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	3,463 台	3,463 台	3,463 台	3,463 台	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

歩行者と自転車を優先するまちアクションプラン



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	<p>自動車交通がもたらす交通事故や交通公害、混雑などを解決するためには、環境負荷の低減を図り、自動車の過度な利用を抑制し、公共交通機関や歩行者、自転車の安全性や利便性、快適性を高めることが必要です。</p> <p>わたしたちは、歩行者も自転車も優先することができる社会をめざすことにより、豊かで快適、安全な、生活の質(クオリティ・オブ・ライフ)の高いまちづくりを実現します。</p>
---------	--

施策体系別評価による総括コメント		審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)	
周知ステッカーの配布、広報ずしでの周知、歩行者と自転車のまちを考える会主催での「逗子カーフリーデー2022」等のイベントの後援、「歩行者と自転車を優先するまち」ワークショップを実施し、また、逗子市道55号に矢羽根・自転車ピクトグラム、新宿地区交差点に自転車停止啓発看板の設置等を行えたが、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策がしめせなかったこともあり、取組の達成状況は十分とはいえない。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の削減やコロナ禍の影響もあり進捗が遅れているとはいえ、具体的方策を示せない状況が続いており、道筋が見えない。進行管理が機能していない。 ・折角懇話会(歩行者と自転車を優先するまちワークショップ)が開かれても、事後報告が多く、大きな方針の共有や、具体の施策についての議論されていない。 ・担当者は個別のタスクを一生懸命こなしているが、それらが大きく政策目標にどう結んでいるのかの体系的な確認もできていない。 ・改めて、ワークショップにおいて逗子市役所をはじめとした参加者で本政策の目的を再認識し、目標にむかってやるのかやらないのかを明らかにすべき時期にあると認識する。 	C
個別計画の評価2(施策体系別)	C	審議会等が妥当と考える評価区分	C

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	C (c)	歩行者と自転車を優先するまちづくり推進事業	イベントや環境都市課窓口でのステッカー配布による周知活動を実施した。			1 (1)	・ステッカー配布に留まらず、具体的な歩行空間の創出につなげてほしい。
2	C (c)	歩行者と自転車を優先するまちづくり推進事業	自転車の交通ルールについての周知や、イベントの後援、ステッカー配布に取り組んできた。 また、警察と連携して、交通安全活動を実施した。			1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き様々な機会をとらえて交通ルールの周知徹底を継続してほしい。 ・電動キックボードの法改正など、更に交通ルールが複雑になる中、一般市民にきちんと周知できる仕組みの構築が急務であるが、市民活動頼みでは無理があるため行政施策として早急に対応を構築すべきである。
3	C (c)	歩行者と自転車を優先するまちづくり推進事業	地域公共交通の先進事例等の調査・研究を行った。			1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の成果が共有されていない。 ・折角懇話会(歩行者と自転車を優先するまちワークショップ)が開かれても、具体の施策が共有・議論されていない。 ・調査研究の方向性が重要であるので、その方向性の整理を固める前に懇話会で確認、議論する事が懇話会の目的ではないか。 ・また、鉄道事業者の駅改編は、公共交通を主体としたまちづくりにおいても貴重な機会であるので、この機を逃さないような具体的な取り組みが急務である。
4	C (c)	歩行者と自転車を優先するまちづくり推進事業	シェアサイクル実証実験を、期間を延長して継続実施した。 また、歩行者と自転車のまちを考える会主催の「逗子カーフリーデー2022」の後援を行った。			1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・車に頼り過ぎない仕組みづくりをどう進めようとしているのか、市役所の具体的なスタンスが見えていない。 ・カーフリーは多岐にわたる事業が横断的にかかわり市民生活への影響も大きいので、本来市主導で行わないと、「車に頼り過ぎない」社会の実現につながらない。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

- ・予算の削減やコロナ禍の影響もあり進捗が遅れているとはいえ、具体的方策を示せない状況が続いており、道筋が見えない。進行管理が機能していない。
- ・折角懇話会(歩行者と自転車を優先するまちワークショップ)が開かれても、事後報告が多く、大きな方針の共有や、具体の施策についての議論されていない。
- ・担当者は個別のタスクを一生懸命こなしているが、それらが大きく政策目標にどう結んでいるのかの体系的な確認もできていない。
- ・改めて、ワークショップにおいて逗子市役所をはじめとした参加者で本政策の目的を再認識し、目標にむかってやるのかやらないのかを明らかにすべき時期にあると認識する。
- ・その他、矢羽根設置目標30箇所は達成できたが、今後の目標は設置路線の数を設定するべきだ。

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

- ・自家用車利用の削減は交通計画の視点の他、二酸化炭素削減に向けて、自家用車依存を減らす施策を推進することが有効である。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

- ・逗子駅周辺整備が歩行者と自転車を優先するまちの先導役となるよう具体的な方策を早期に示してほしい。
- ・鉄道事業者の駅改編は、公共交通を主体としたまちづくりにおいても貴重な機会であるので、この機を逃さないような具体的な取り組みが急務である。

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

- ・カーフリーは、交通誘導・道路整備・福祉・環境、産業振興、観光事業等横断的な分野で展開する必要があり、市主導で行わないと実現できない。そのための筋道をつくり予算を確保してほしい。
- ・2007年に制定された、逗子市まちづくり基本計画(2015年総合計画で継承)では、「逗子のビジョン」として、
 - ① 自然の恵みと享受
 - ② 血の通ったふれあい社会の創造
 - ③ 自然の摂理をなくしつつある地球への自戒
 - ④ 逗子市民が発するメッセージが掲げられ、その底流として、歩道の大切さと環境破壊への自戒が謳われている。とりわけ、③においては「過度な車依存からの脱却」が冒頭で提起されている。
- ・しかし、前期実施計画(2015-2022)においては、「歩行者と自転車を優先するまち推進事業」は計画そのものが貧弱で、市の施策の中心になりえていない。
- ・2023年からの中期計画は終期が2029年であるが、2030年は国がCO2削減目標46%達成を国際的に約束した年であり、逗子市においても、「ビジョン」と「ゼロエミ宣言」の精神からしても、意欲的な(例えば50%)CO2削減目標を掲げ、必死の努力をすることが不可避である。
- ・この目標を達成するために、多額の助成金なしに、逗子市が実施できる政策は、自動車の利用抑制しかなく、このためには「歩行者と自転車を優先するまち」実現への数値目標と具体的施策の立案に市と市民が総力を挙げる必要がある。資金が不足するならば、環境省と直談判するぐらいの熱意が求められる。

歩行者と自転車を優先するまちアクションプラン【事業進行管理表】



事業名		歩行者と自転車を優先するまち推進事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-3 1		3 歩行者と自転車を優先するまち		
所管名	1510 環境都市課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 11,536千円
事業概要	目的	安全で快適な歩行空間を創出する。適切な自転車利用ができる環境づくり。公共交通アクセス手段の向上。自動車に頼りすぎない仕組みづくりの実現。		
	対象	歩行者、自転車、公共交通、自動車など市内の道路を利用する者及び市民、警察、行政、商店会、交通事業者などの関係機関等		
手段	概要	歩行空間における支障物の解消、歩行者優先の周知・啓発活動、楽しんで歩ける環境づくり。自転車利用環境の向上、ルール・マナーの効果的な周知と啓発、自転車を楽しむ風土づくり。公共交通の利用促進。車の利用方法の見直し。地域主体のコミュニティバス等の導入に係る研究及び運行に向けた支援。		
	年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
年度別計画	○JR逗子駅前周辺地区重点プログラムの実施	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○自転車利用のルール、マナーの徹底した周知	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○歩行者と自転車のまちづくりニュース全戸配布	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○カーフリーデーの実施(共催)	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○地域主体のコミュニティバス等の運行に向けた支援	→→→→→	→→→→→	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
限られた道路空間における、歩行者・自転車・自動車の共存の方策が実施されている。			アクションプランを策定した。	

＜2022年度 進捗状況＞ 事業費(2022(令和4)年度実績額) 0円

実施結果

- ・歩行者と自転車のまちを考える会の主催で、「ツール・ド・逗子2022」(5月22日)、「逗子カーフリーデー2022」(9月23日)、「トモイク自転車教室」(3月25日)を実施した。
- ・シェアサイクル実証実験(経済観光課にて令和元年度より開始)の専用駐輪場(ステーション)を1か所追加設置した。(合計32か所)
- ・逗子市道55号に矢羽根・自転車ピクトグラムの設置、銀座通りに自転車歩道走行等対策のための啓発ステッカーの設置、新宿地区交差点に自転車停止啓発看板の設置等を行った。

反省点・問題点 工夫している点

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
「歩行者と自転車を優先するまち」ワークショップを実施し、自転車誘導マーク等の設置を行うことができたが、歩行者・自転車の共存方法の具体的な方策が示せなかった。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

＜審議会・懇話会等の意見＞

<ul style="list-style-type: none"> ・予算の削減やコロナ禍の影響もあり進捗が遅れているとはいえ、具体的方策を示せない状況が続いており、道筋が見えない。進行管理が機能していない。 ・折角懇話会(歩行者と自転車を優先するまちワークショップ)が開かれても、事後報告が多く、大きな方針の共有や、具体の施策についての議論されていない。 ・担当者は個別のタスクを一生懸命こなしているが、それらが大きく政策目標にどう結んでいるのかの体系的な確認もできていない。 ・改めて、ワークショップにおいて逗子市役所をはじめとした参加者で本政策の目的を再認識し、目標にむかってやるのかやらないのかを明らかにすべき時期にあると認識する。 	審議会等が妥当と考える評価区分 (c) 本事業の目的は達成できなかった
---	--

■第4節 取り組みの方向4

計画名：都市機能の整った快適なまち推進プラン

都市機能の整った快適なまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	市民の安全で快適な都市生活を維持し、拡充を図るため、高齢化の急速な進展や多様化する社会ニーズに対応し、長期的な視点に立った都市機能の整備が必要です。 本市の財政状況や限られた土地の利活用の視点、高齢化等への配慮から施設の複合化や多機能化、バリアフリー化を図り、また、地震をはじめとした自然災害等を考慮した都市機能の再編・再整備を計画的に進めます。
---------	--

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る総括コメント	目標1と目標3については達成できなかったがそれ以外の目標については達成できたため、概ね達成できた。	個別計画の評価1 (8年間の取り組みに係る総括評価)	Ⓑ
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)	それぞれの事業についての意見はあるが、評価としては妥当であるとする。	審議会等が妥当と考える評価区分	Ⓑ

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分	B
---------------------	---	-----------------	---

②目標【2022年度】に対する評価

目標1	★(仮称)JR 東逗子駅前用地活用計画のもと、施設整備を行う。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	計画の策定に着手していない。	用地の活用に向けて、有力な事業実施手法である PPP/PFI について職員間で情報共有を図った。	事業スケジュールを見直した。	基本構想の策定に向け、庁内プロジェクトチームの検討結果を報告書としてまとめた。	基本構想(案)を作成し、市民説明会を開催した。
目標に対する評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	基本構想を策定できていない。	基本構想を策定できていない。	基本構想を策定できていない。	基本構想を策定した。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標2	★市営住宅のバリアフリー化率が100パーセントになっている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	67%	67%	67%	67%	87%
目標に対する評価	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	87%	100%	100%	100%	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 3	2003(平成 15)年に策定した逗子市交通バリアフリー基本構想に基づき、対策の必要な市道の 17 箇所すべての工事が完了している。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	12 箇所	12 箇所	12 箇所	13 箇所	13 箇所
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	13 箇所	13 箇所	13 箇所	13 箇所	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 4	神武寺トンネルの歩道幅員を2メートルに拡幅する。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	0.87m	0.87m	0.87m (工事施工中)	2.00m (工事しゅん工)	2.00m (完了)
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	2.00m (完了)	2.00m (完了)	2.00m (完了)	2.00m (完了)	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 5	管渠及び処理場・ポンプ場施設において、長寿命化対策工事及び地震津波対策工事を実施している。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	浄水管理センター管理棟の耐震補強工事完了	浄水管理センター流入渠・放流渠・バイパス管の耐震補強実施設計を行った。	マンホールトイレシステム設置工事及び処理場内EXP-J耐震補強工事の完了。処理場内の一部において長寿命化及び耐震補強工事を実施中	浄水管理センターの第1・2系列処理棟耐震補強工事及び第3系列水処理設備改築工事完了	マンホールトイレシステム設置工事及び2015年度に設計した流入渠・放流渠・バイパス管の耐震補強工事の一部を実施した。
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	マンホールトイレシステム設置工事、処理場内の流入渠・放流渠等耐震補強工事及び管理棟屋上防水等建物改修工事を実施した。	マンホールトイレシステム設置工事、処理場内の第3系列最初沈殿池污泥掻き機等改築工事及び水処理棟屋根防水等建物改修工事を実施した。	マンホールトイレシステム設置工事、処理場内の第3系列最初沈殿池污泥掻き機等改築工事、水処理及び污泥処理設備改築工事、汚水管更生工事を実施した。	マンホールトイレシステム設置工事、処理場内の水処理及び污泥処理設備改築工事、第3系列污水ポンプ設備等改築工事、汚水管更生工事を実施した。	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

都市機能の整った快適なまち推進プラン



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	市民の安全で快適な都市生活を維持し、拡充を図るため、高齢化の急速な進展や多様化する社会ニーズに対応し、長期的な視点に立った都市機能の整備が必要です。 本市の財政状況や限られた土地の利活用の視点、高齢化等への配慮から施設の複合化や多機能化、バリアフリー化を図り、また、地震をはじめとした自然災害等を考慮した都市機能の再編・再整備を計画的に進めます。
---------	--

施策体系別評価による総括コメント		審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)	
都市環境の改善	順調であるとみなせるが、土地の利活用については、順調であるとみなせないため、総括としては、取組はある程度達成できた。	それぞれの事業についての意見はあるが、評価としては妥当であるとする。	
個別計画の評価2(施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分	B

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	a (a)	・狭あい道路整備事業 ・崖地対策事業 ・下水道施設再整備事業	重点事業は3事業とも順調であり、進捗評価としては順調であるとみなせる	4 (4)	0 0	0 0	評価としては妥当であるとする。
2	c (c)	・JR東逗子駅前用地活用事業	重点事業が順調であるとみなせないことから、進捗評価は順調であるとみなせない。	0 0	0 0	1 (1)	評価としては妥当であるとする。
3							
4							

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

JR東逗子駅前用地活用事業については、新たな目標に向けての近年の取組みが順調で、さらに今後の具体的な年度ごとのスケジュールも示してもらえたことができた。現在の目標は達成できなかったが、事業としては良い評価である。

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

歩行者と自転車を優先するまち推進事業については、逗子市総合計画実施計画の第4節第3項である、「歩行者と自転車を優先するまち」のリーディング事業として設定しているが、逗子にとって快適なまちとするために本計画でも重要な事業であるため、本計画の改訂の際には本事業の実質的な成果が見えるような具体的な取組みについて目標設定した上で取り組んでいてもらいたい。

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

狭あい道路整備事業については、現在の目標に対しては達成できているが、評価について他力本願なところがあるので、改訂の際には市の努力として評価できるような目標にしてもらいたい。

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

昨年度、中期実施計画が策定されたこともあり、上記の内容を考慮した計画に改訂してもらいたい。

都市機能の整った快適なまち推進プラン

【事業進行管理表】



事業名		JR東逗子駅前用地活用事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-4 1		4 都市機能の整った快適なまち		
所管名	1110	企画課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 15,300千円
事業概要	目的	JR東逗子駅前の旧国鉄清算事業団用地を有効活用することで、駅周辺の快適性・利便性を向上させるとともに、活性化を図る。		
	対象	市、市民、事業者		
概要	手段	市民や事業者、地権者との合意形成を図り、用地活用計画を策定する。また、民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、施設整備を行う。		
	年度別計画	2019(令和元)年度 ○民間資金等の活用 の検討 ○事業者選定	2020(令和2)年度 ○施設整備に係る実 施設計	2021(令和3)年度 ○施設整備工事
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
(仮称)JR東逗子駅前用地活用計画のもと、施設整備を行う。			計画の策定に着手していない。	

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 0円

実施結果	市民参加手続き(説明会・パブコメ)を実施の上、基本構想を策定した。		
	反省点・問題点	工夫している点	国の補助金も活用して事業を進めていく。(令和6年度に基本設計、令和7年度に実施設計、令和8～9年度に施工を行い、令和9年度中に供用開始)

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
基本構想は策定したものの、施設整備には至っていない。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

<審議会・懇話会等の意見>

ここ1、2年の取組みが非常に順調で、さらに具体的な年度ごとのスケジュールも出ているので、目的は達成できなかったが、事業としては良い評価である。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(c) 本事業の目的は達成できなかった

都市機能の整った快適なまち推進プラン

【事業進行管理表】



事業名		市営住宅整備事業			
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち			
4-4 2		4 都市機能の整った快適なまち			
所管名	1560	都市整備課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 754,054 千円
事業概要	目的	健康で文化的な生活を営むことができる市営住宅を計画的に整備する。 (老朽化した市営住宅を統廃合し、池子住宅に続き、桜山住宅を建替える。)			
	対象	市営住宅の利用者及びこれから市営住宅を必要とする市民			
	手段	市営住宅管理計画に基づき、市営住宅の計画的な整備・配置を実施するとともに、既存市営住宅のバリアフリー化を推進する。			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
	○既存市営住宅のバリアフリー化	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】		
市営住宅のバリアフリー化率が100パーセントになっている。			59パーセント		

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 0 円

実施結果	2019年度に策定した市営住宅長寿命化計画において、住宅需要推計により2024年度(令和6年)度には、小坪滝ヶ谷第3住宅は不要となる結果を得た。バリアフリー化されていない小坪滝ヶ谷第3住宅(沼間南台住宅、池子住宅や桜山住宅はバリアフリー化済)については、入居者を他の市営住宅に移転してもらい、用途廃止する方向で進めている。	
反省点・問題点	工夫している点	小坪滝ヶ谷第3住宅の入居者には国費を活用した移転費助成を支払い、他の市営住宅に移転してもらい、早期の用途廃止を推進している。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
バリアフリー化率86.8%(全114戸のうち99戸)。 ただし、バリアフリー化されていない小坪滝ヶ谷第3住宅については、2024年度以降、市営住宅長寿命化計画により不要と整理するため、バリアフリー化完了	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

事業目標は達成しており、評価としては妥当であるとする。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(a) 本事業の目的は達成できた

都市機能の整った快適なまち推進プラン

【事業進行管理表】



事業名		狭あい道路整備事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-4 3		4 都市機能の整った快適なまち		
所管名	1560	都市整備課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 49,064 千円
事業概要	目的	狭あい道路を4m以上に拡幅し、防災活動や生活環境を向上させる		
	対象	狭あい道路に接する土地所有者		
	手段	後退部分の寄付を前提に、植木や塀等の移転・撤去の費用として、50万円を限度に補助する。また、分筆・所有権移転等の登記手続費用を市が負担するとともに、市道として道路整備をする。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○市道との境界確定に係る測量委託を行う。	→→→→→→→→	→→→→→→→→	→→→→→→→→
	○寄付のあった道路後退部分に係る物件の補償を行う。	→→→→→→→→	→→→→→→→→	→→→→→→→→
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
狭あい道路整備の申請件数が224件になっている			190件	

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 10,596,143 円

実施結果	申請件数:16件		
	反省点・問題点	工夫している点	小規模開発事業事前調査書がまちづくり景観課へ提出される際に、狭あい道路整備事業の説明を行っている。また、境界確定の立会の際にも該当道路においては事業説明を行っている。ずし広報において定期的に周知を行っている。
反省点・問題点	土地の寄付が前提となるため、建築等による土地利用が伴わないと寄付を受けることが難しい。 狭あい道路の両側が拡幅整備され、4mの道路にならないと目標が達成できない。		

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
申請件数が、238件になった。 目標は達成できたが、懇話会で「分かりやすい目標を」との意見があったため、改訂の際に検討した。	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

現在の評価については他力本願なところがあるので、市の努力として評価できるような目標にしたい。 現在の目標に対する評価としては妥当であると判断する。	審議会等が妥当と考える評価区分 (a) 本事業の目的は達成できた
--	-------------------------------------

都市機能の整った快適なまち推進プラン

【事業進行管理表】



事業名		崖地対策事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-4 4		4 都市機能の整った快適なまち		
所管名	1560 都市整備課	<input type="checkbox"/> リーディング事業	<input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 40,428 千円
事業概要	目的	道路沿いのがけ崩れ対策		
	対象	道路を通行する車両や歩行者		
	手段	民有地に関して適正な維持管理を行うよう促していく。また、防災性の高いまちづくりを推進するために、ホームページや広報誌等で啓発を図っていく。なお、危険個所については、自治会町内会や住民自治協議会と連携して箇所の把握や周知を図っていく。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	防災工事助成の実施件数が15件となっている。	防災工事助成の実施件数が19件となっている。	防災工事助成の実施件数が23件となっている。	防災工事助成の実施件数が27件となっている。
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
防災工事費助成件数 27件			15件	

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 9,571,000 円

実施結果	2022年度は18件実施した。 また、昨年度同様住民自治協議会と連携し、危険個所の把握及び周知をした。	
	反省点・問題点	工夫している点 職員による定期点検で要対策箇所と判断した箇所や、住民自治協議会と連携し、危険個所と判断した箇所については、所有者に通知をし、防災助成の紹介を行っている。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
実施済み箇所60件。 自治会町内会と連携し、箇所の把握と周知を行った結果急傾斜地崩壊対策事業の要望申請や防災施設マップ作製に寄与した。	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

<p>制度の改訂を行い、よりきめ細かく支援できるようになったことについては評価できる。 工事を行う際には、景観に配慮した工法を検討してもらいたい。 目標に対する評価は妥当であると判断する。</p>	<p>審議会等が妥当と考える評価区分</p> <p>(a) 本事業の目的は達成できた</p>
--	--

都市機能の整った快適なまち推進プラン

【事業進行管理表】



事業名		下水道施設再整備事業		
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち		
4-4 5		4 都市機能の整った快適なまち		
所管名	1570	下水道課	<input type="checkbox"/> リーディング事業 <input checked="" type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 49,755 千円
事業概要	目的	老朽化が進行する下水道施設を再整備することにより、持続的な事業運営を図る		
	対象	下水道を利用する市民		
	手段	再整備に向けた調査・研究等を進める		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	浄水管理センター再整備に関する基本事項の検討項目の整理	再整備に関する基本事項の一部検討及び取りまとめ	再整備に関する基本事項の検討及び取りまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内調整 ・(必要に応じて)国・県との協議 ・(必要に応じて)関連事項の整理
	目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】	
	浄水管理センター再整備の方針が確定している。		基本事項を検討中	

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 5,853,036 円

実施結果	<p>・令和4、5年度の2か年で業務委託により葉山町と汚水処理の広域化・共同化の可能性検討調査を実施しており、令和4年度では技術的実現可能性の検討を行い、技術的には可能であることを確認した。</p>
------	---

反省点・問題点	工夫している点
---------	---------

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
令和3年度に処理場再整備に基本構想を作成した。令和4年度、令和5年度の2か年で、葉山町との広域化・共同化の検討を行うこととしており、令和4年度は技術的実現可能性の検討を行った。	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

<p>着実に必要な検討を進めているということが確認できた。 目標に対する評価は妥当であると判断する。</p>	<p>審議会等が妥当と考える評価区分</p> <p>(a) 本事業の目的は達成できた</p>
--	--

■第4節 取り組みの方向5

計画名：商工業振興計画・小坪海浜地域活性化計画《未策定》

地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	市街地を囲むみどり豊かな山や青い海の逗子海岸や小坪漁港、これらの逗子の魅力を国内外に向けて発信し続け、人が集い、ふれあいの輪が広がり、地域のにぎわいが生まれるまちをつくります。 自然、文化、人という逗子の恵まれた地域資源を、磨き、つなぎ、生かすことにより、地域産業の活性化や個性豊かな産業の創出を図るとともに、住む人、働く人、訪れる人が一体となって、成熟した魅力あふれるまちをつくります。
---------	---

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る総括コメント	逗子海岸の海水浴客数は順調に推移していたが、2020年からの新型コロナウイルス感染者が増加したことによる自主的な外出自粛のため来場者は目標に届かなかったが、逗子海岸を年に数回以上利用する人の割合が目標の70%を達成した。 総合的には「取組の方向」に向けたこの間の取組は、ある程度達成できたと考える。	個別計画の評価1 (8年間の取り組みに係る総括評価)	Ⓑ
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)		審議会等が妥当と考える評価区分	

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分	B
---------------------	---	-----------------	---

②目標【2022年度】に対する評価

目標1	★逗子海岸が安全で快適なファミリービーチとして維持されており、海水浴客数が40万人を超えている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	237,200人	329,000人	201,300人	294,300人	364,000人
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	334,800人	66,600人	86,600人	250,500人	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 2	★(仮称)商工業振興計画が完成し、推進されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	策定に向けた調査・研究に着手していない。	策定に向けた情報収集等を行っている。	策定に向けた情報収集等を行っている。	策定に向けた情報収集等を行っている。	策定に向けた情報収集等を行っている。
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	策定に向けた情報収集等を行っている。	社会状況の変化を見定めた後に改めて関係団体と調整のうえ、策定に着手する。	社会状況の変化を見定めた後に改めて関係団体と調整のうえ、策定に着手する。	社会状況の変化を見定めた後に改めて関係団体と調整のうえ、策定に着手する。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 3	★(仮称)小坪海浜地域活性化計画が完成している。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	策定に向けた調査・研究に着手していない。	策定に向けた調査・研究に着手していない。	策定に向けた調査・研究に着手していない。	策定に向けた情報収集等を行っている。	策定に向けた情報収集等を行っている。
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	策定に向けた情報収集等を行っている。	策定に向けた情報収集等を行っている。	策定に向けた情報収集等を行っている。	策定に向けた情報収集等を行っている。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 4	「まちづくりに関する市民意識調査」における年に数回以上逗子海岸を利用する人の割合が、70パーセント以上になっている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	—	—	—	67.2%	65.9%
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	64.7%	66.5%	63.4%	70.1%	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

※「まちづくりに関する市民意識調査」は2014年度、2015年度、2016年度未実施



■ * 商工業振興計画・小坪海浜地域活性化計画 《未策定》

◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	市街地を囲むみどり豊かな山や青い海の逗子海岸や小坪漁港、これらの逗子の魅力を国内外に向けて発信し続け、人が集い、ふれあいの輪が広がり、地域のにぎわいが生まれるまちをつくります。 自然、文化、人という逗子の恵まれた地域資源を、磨き、つなぎ、生かすことにより、地域産業の活性化や個性豊かな産業の創出を図るとともに、住む人、働く人、訪れる人が一体となって、成熟した魅力あふれるまちをつくります。
---------	---

施策体系別評価による総括コメント	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
逗子海岸保全活用事業については、新型コロナウイルス感染者数が増加したことによる自主的な外出の自粛のため、来場者数は目標に届かなかったが、新たに環境に配慮した取組の旗印としてブルーフラッグを取得・活用したことから、目的は概ね達成できた。 商工業振興事業及び小坪海浜地域活性化事業は、それぞれの計画の策定は予定より遅れているが、状況に合わせコロナ禍における商業支援、漁港の新たな活用や漁港を中心とした活性化に向けた検討に着手するなど目的は概ね達成できた。以上のことから、総括として令和4年度の取組の達成状況は、ある程度達成できたと考ええる。	
個別計画の評価2(施策体系別)	B
	審議会等が妥当と考える評価区分

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	b (b)	逗子海岸保全活用事業	7月末から新型コロナウイルス感染者数が増加したことによる自主的な外出の自粛のため、来場者数は目標に届かなかったが、新たに環境に配慮した取組の旗印としてブルーフラッグを取得・活用したことから、目的は概ね達成できた。		1 (1)		《事業進行管理表欄再掲》 事業評価については妥当と考える。
2	b (b)	商工業振興事業	仮称)商工業振興計画の策定に着手できていないが、経営相談窓口の拡充や創業スクールのオンデマンド配信などに、アフターコロナを見据えた商工業事業者の支援を行ったことから、目的は概ね達成できた。		1 (1)		《事業進行管理表欄再掲》 事業評価については妥当と考える。
3	b (b)	小坪海浜地活性化事業	仮称)小坪海浜地域活性化計画の調査・研究は実施したものの、策定に着手できていないが、漁港の新たな活用や漁港を中心とした活性化に向けた検討に着手しているため、目的は概ね達成できた。		1 (1)		《事業進行管理表欄再掲》 事業評価については妥当と考える。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

*** 商工業振興計画 * 小坪海浜地域活性化計画【事業進行管理表】**



事業名		逗子海岸保全活用事業			
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち			
4-5 1		5 地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち			
所管名	1330	経済観光課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015~2022年度】 332,000 千円
事業概要	目的	逗子海岸のあり方や保全・活用方法を検討し、ファミリービーチとして安全で快適に利用できる海岸をつくる。			
	対象	市民、海岸利用者、海水浴客、観光客			
	手段	海岸の美化(啓発、アダプトプログラムの推進、清掃等)、海水浴場の開設・運営、海浜公衆トイレの維持管理、海水浴場のあり方の検討と改善策の実施			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
	○海水浴場のあり方の検討と改善策の実施	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
	○海岸の美化	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
	○海水浴場の開設・運営	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
	○海浜公衆トイレの維持管理	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】		
逗子海岸が安全で快適なファミリービーチとして維持されており、海水浴客数が40万人を超えている。			201,300人 【2014(平成26)年度実績】		

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 42,940,913 円

実施結果	<p>○逗子海水浴場の運営に関する検討会を5回実施した。県の「海水浴場ルールに関するガイドライン(令和4年度版)」を踏まえて協議・検討を重ね、5月12日に感染症対応等に関する条件付きで開設を決定し、令和2年の不設置、令和3年の途中休場を経て、3年ぶりに66日間運営した。運営にあたっては、違反を繰り返す利用者への退場勧告や外国人アドバイザーの配置を追加してマナーアップ警備を実施した。また、事業者との協働で、防犯カメラを設置し、AIを活用した防犯対策と感染防止のための試行的な取り組みを行った。さらに、逗子海岸営業協同組合と協働で国際環境認証「ブルーフラッグ」の認証を初めて取得し、SDGsにも合致した環境や安全に配慮した取り組みを推進した。</p> <p>○かながわ海岸美化財団による海岸清掃を101日実施した。逗子ビーチクリーン隊との逗子海岸一斉清掃を10日実施した。</p> <p>○海水浴場活性化イベント参加者は、5月実施分104人、7,8月実施分611人、12月実施分47人、3月実施分31人で合計793人となった。</p> <p>○海浜公衆トイレ3か所の清掃を1か所につき253回実施し清潔に保った。</p>	
	反省点・問題点	<p>・海水浴場において、条例違反を繰り返す者への退場勧告や外国人通訳アドバイザーの配置は、安心安全な運営のために効果があったが、違反者は一定数いることから継続する必要がある。</p> <p>・ブルーフラッグを取得したが、認知度が足りていないため、広く周知していく必要がある。</p>
工夫している点	<p>ファミリー層を中心に全ての世代が安心して楽しめる海水浴場となるよう、海岸関係者、関係機関、市民が同じ方向を向いて取り組んでいる。新たに環境に配慮した取組の旗印としてブルーフラッグを活用している。</p>	

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
2022(令和4)年度の来訪者数250,500人	イ 目標を達成できなかった	7月末から新型コロナウイルス感染者数が増加したことによる自主的な外出の自粛といった社会状況変化等考慮すべき事情があったため	(b) 本事業の目的は概ね達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

<p>事業評価については妥当と考える。</p> <p>【事業の推進に係る意見・提案等】</p> <p>・海外の海岸のようにビーチパラソル&ベッドゾーンの有料利用券を求めていくなどのラグジュアリーエリアを設けることを今後検討してほしい。</p>	<p>審議会等が妥当と考える評価区分</p> <p>(b) 本事業の目的は概ね達成できた</p>
---	--

*** 商工業振興計画 * 小坪海浜地域活性化計画【事業進行管理表】**



事業名		商工業振興事業	
【総合計画の体系】		第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち	
4-5 2		5 地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち	
所管名	1330 経済観光課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 312,400 千円
事業概要	目的	中小企業者や商店街を支援することにより商工業を活性化する。	
	対象	商工業振興の方向性を明確化し、市民・商業者・行政との協働のもと活性化を図る。 市民、商工業者、中小企業者、商工会、同業者団体、商店街	
	手段	逗子市商工会が実施する市内商工業者の相談指導や地域活性化事業に対する補助金を交付する。商店街に補助金を交付する。(仮称)商工業振興計画を策定する。	
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
	○商工会への助成	→→→→→	→→→→→
	○商店街への助成	→→→→→	→→→→→
	○(仮称)商工業振興計画の策定 ・(仮称)商工業振興計画策定検討会による検討	○(仮称)商工業振興計画の推進	→→→→→
目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】	
(仮称)商工業振興計画が完成し、推進されている。		策定に向けた調査・研究に着手していない。	

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 30,115,325 円

実施結果	<p>○逗子市商工会へ商工業振興事業補助金、信用保証料補助金を交付した。 ○新型コロナウイルスの影響を受けた事業者を支援するため、経営相談窓口の拡充を重点的に支援した。 ・教室スタイルの集団講習会は「プレスリリースオープンセミナー(35名参加)」、「インボイス制度対策セミナー(22名参加)」を開催し、個別指導では巡回指導と窓口指導合わせて延べ2,231件の経営指導実績があった。 ・地域資源事業のみやげまつりを令和4年9月25日に開催し、特産品開発事業「逗子の暮らしのセレクション」やふるさと納税関連事業により新たな特産品の開発や掘り起こしを行った。 ○創業支援事業計画に基づく創業スクールは令和3年度に引き続きオンデマンド配信方式により開催し、112名が参加した。 ○商工会にて移動販売車を導入し、創業や新たな事業展開を目指す事業者に対し貸し出す事業を開始した。 ○新型コロナウイルス等の予期せぬ経済環境変化に対応しようとする事業者に対して、小規模事業者等活性化補助金により支援を行った(採択数31件、補助金額8,314,000円) ○商店街3団体が地域活性化イベントを実施する予定だったが、感染拡大防止のため1団体のみの実施となった。</p>	
反省点・問題点	社会状況の変化が著しい中、改めて関係団体と調整のうえ、計画策定に着手する必要がある。	工夫している点 アフターコロナを見据え、事業者が経済環境変化に対応し、持続的に発展していけるよう重点的に支援を行った。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
仮称)商工業振興計画の策定に着手できていないが、経営相談窓口の拡充や創業スクールのオンデマンド配信などにアフターコロナを見据えた商工業事業者の支援を行った。	イ 目標を達成できなかった	アフターコロナを見据えた事業者支援に注力したため、(仮称)商工業振興計画の策定までに至らなかった。 <u>しかしながら、事業本来の目的に関しては、実施結果に述べたように推進を図った。</u>	(b) 本事業の目的は概ね達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

事業評価については妥当と考える。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(b) 本事業の目的は概ね達成できた

*** 商工業振興計画 * 小坪海浜地域活性化計画【事業進行管理表】**



事業名 小坪海浜地域活性化事業				
【総合計画の体系】 4-5 3	第4節 安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち 5 地域資源を生かした個性豊かなにぎわいのあるまち			
所管名 1330 経済観光課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業 計画事業費【2015~2022年度】 251,480 千円			
事業概要	目的 逗子で唯一の地場産業である漁業の振興を図るとともに、小坪漁港を整備し、小坪海浜地域の活性化をめざす。			
	対象 市民、事業者(小坪海浜地域)、小坪漁業協同組合			
	手段 小坪漁業協同組合への補助金の交付、国有海浜地不法占拠物件の撤去、国有海浜地の整理、小坪漁港の整備・保全工事、(仮称)小坪海浜地域活性化計画の策定			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○小坪漁業協同組合への補助金の交付	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○(仮称)小坪海浜地域活性化計画の策定	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】	
(仮称)小坪海浜地活性化計画が完成している。		策定に向けた調査・研究に着手していない。		

<2022年度 進捗状況> **事業費(2022(令和4)年度実績額)** 10,195,964 円

実施結果	○小坪漁業協同組合へ水産業振興事業補助金(稚貝放流及び活性化イベント)、運営費補助金を交付した。 ・サザエ、アワビの稚貝を購入して漁場に放流することで、漁業の生産能率を上げ、地場産業の振興を図った。 ・観光との組み合わせなどによる活性化イベント等の試行的取り組みを継続しつつ、漁港来訪者の受入設備(Wi-Fi・洗い場など)を整備することで受入体制を整えた。 ○国有海浜地における水産業及び地域振興に寄与する時間貸駐車場として、公募で決定した占用事業者によって小坪海浜地駐車場の運用を開始した。 ○(仮称)小坪海浜地域活性化計画の調査・研究について、令和3年度から行っている漁港利用事業者間との意見交換を実施し、将来に向けた一定の方向性の合意形成を図った。これをもとに国の海業振興モデル地区の申請を行い、海業振興モデル地区に選定された。
	反省点・問題点 小坪海浜地域全体の計画を進めるには協議する内容が多岐にわたるとともに、関係者数が多く、協議に時間を要するため、計画の一部である小坪漁港の整備を含めた活性化を優先して進めたことで全体計画策定が予定より遅れた。
工夫している点	令和3年度に引き続き、漁港利用事業者と漁港の抱える課題や新たな活用方法について意見交換を行った。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
(仮称)小坪海浜地域活性化計画の調査・研究は実施したが、策定に着手できていないが、漁港の新たな活用や漁港を中心とした活性化に向けた検討に着手している。	イ 目標を達成できなかった	計画が広範囲に及ぶことから、利害関係者等との意見交換の結果、漁港を中心とした活性化から優先して取り組むことになったため。	(b) 本事業の目的は概ね達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

事業評価については妥当と考える。 【事業の推進に係る意見・提案等】 ・小坪漁業協同組合と観光協会が行う船上市場や実行委員会が行う小坪みんなのマルシェの開催支援などにより、地域活性化イベントがスムーズに行われるようになったことは大変評価する。 ・小坪地区には小坪保育園、学童、コミュニティセンター、消防署があるが、津波の危険性を踏まえて長期的な計画を策定することが望ましい。	審議会等が妥当と考える評価区分 (b) 本事業の目的は概ね達成できた
--	--



■ * 市民主権プラン 《未策定》

5 新しい地域の姿を示す市民主権のまち

基幹計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「めざすべきまちの姿」の評価

めざすべきまちの姿	<p>市民は、市政の主権者であり、まちづくりに参加する権利を有します。</p> <p>わたしたちは、主権者である市民として、互いに尊重し合いながら、その人のもつ個性や能力を十分に発揮できる地域社会をつくっていきます。また、グローバル化した社会の中で、地域や国を越えて、世界に貢献していきます。</p> <p>わたしたちは、地域社会、さらには世界の一員として主体的に行動する市民主権のまちをつくりまします。</p>
-----------	--

◇市の評価

8年間の取り組みに係る総括コメント		基幹計画 の評価 (8年間の 取り組み に係る総 括評価)
<p>・4つの個別計画のうち、策定されている計画は1つである。</p> <p>・男女共同参画プランについては、逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例案が市議会第2回定例会で議決され、条例を制定した。(施行日令和4年10月1日)</p> <p>・5つの計画については、全て前年度と変わらない評価だった。</p> <p>・総括としては、「めざすべきまちの姿」に向けたこの間の取り組みの達成状況は十分とは言えない。</p> <p>市民主権のまちをめざすに当たっては、各個別計画に位置付けられている事業の推進について、着実かつ戦略的に取り組みを進めていく必要がある。</p>		
		△

◇基幹計画に位置づけられる個別計画の「個別計画の評価1」の結果

1 市民自治のまち	2 誰もが尊重され、自由で平等なまち	3 情報化で、よりよく暮らせるまち	4 世界とつながり、平和に貢献するまち	
* 市民自治推進計画 (未策定)	男女共同参画プラン	* 情報化推進計画 (未策定)	* 国際交流推進計画 (未策定)	
◎	◎	◎	◎	

◇審議会・懇話会等の意見／【Check】の観点からの意見等

< 審議会・懇話会等総括意見 >	審議会等が妥当と 考える評価区分

< 各個別計画の評価状況についての意見 >

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<計画の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

<基幹計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

■第5節 取り組みの方向1

計画名：市民自治推進計画《未策定》

市民自治のまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの 方向	<p>逗子のまちづくりを担っているのは、市民一人ひとりです。市民が、自分のことだけでなく、他人や地域、自然のことを自分のことのように考え、行動することができる市民の姿が望まれます。</p> <p>また、逗子に住み、働き、学び、交わるあらゆる主体が、地域の一員として、考え、行動し、それぞれの関係の中で互いの理解を深め、担い合い支え合うことにより、心豊かな市民自治のまちを実現します。</p>
-------------	---

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る 総括コメント	<p>住民自治協議会は4小学校区で設立し、積極的な活動が行われているが、目的は達成できなかった。他4つの目標いずれも達成できなかった。</p> <p>総合的には「取組の方向」に向けたこの間の取組の達成状況は十分とはいえない。</p>	◎
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)		審議会等が 妥当と考える 評価区分

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	C	審議会等が 妥当と考える 評価区分
---------------------	---	-------------------------

②目標【2022年度】に対する評価

目標 1	★(仮称)自治基本条例が施行されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	検討に着手していない。	(仮称)自治基本条例の調査研究の一環として、職員向けの行政課題研修を実施した。	市民参加のワークショップ(2016～2017年度にかけて全16回開催予定)を全8回開催した。 学識等による検討会(2016～2017年度にかけて全5回開催予定)を2回開催した。	市民参加のワークショップを8回開催し、予定していたワークショップが全て終了した。 学識等による検討会を4回開催し、検討会での検討が全て終了した。	行政内部で条例案のブラッシュアップを行った。
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	検討作業は進んでいない。	検討作業は進んでいない。	検討を凍結している。	検討を凍結している。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 2	★5小学校区すべての住民自治協議会において、地域の課題解決の取り組みが行われている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	1 小学校区で設立	2 小学校区で設立	3 小学校区で設立	4 小学校区で設立	4 小学校区で設立
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	4 小学校区で設立	4 小学校区で設立	4 小学校区で設立	4 小学校区で設立	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 3	★(仮称)市民協働推進条例が施行されている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	検討に着手していない。	検討に着手	条例制定に向けて検討中	条例制定に向けて検討中	条例制定に向けて検討中
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	条例制定に向けて検討中	制定に係る調査・研究及び検討を凍結	制定に係る調査・研究及び検討を凍結	制定に係る調査・研究及び検討を凍結	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 4	市民が行政計画の達成状況等を検証する仕組み等、まちづくりの主体となって参加できる仕組みが機能している。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	仕組みを検討	個別計画・基幹計画等の策定推進に関わっている市民による「まちづくりネットワーク会議」を2回(春・秋)開催した。	住民自治協議会のメンバーがあらたに参加し、「まちづくりネットワーク会議」を2回(春・秋)開催した。	「まちづくりネットワーク会議」を2回(春・秋)開催した。	「まちづくりネットワーク会議」を2回(春・秋)開催した。
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	「まちづくりネットワーク会議」を2回(春・秋)開催した。	各計画間の情報交換が各計画の推進に生かすという目的達成、及び参加者の多様なニーズ対応が困難なことから、当面の間、「まちづくりネットワーク会議」の開催を見送ることとした。	各計画間の情報交換が各計画の推進に生かすという目的達成、及び参加者の多様なニーズ対応が困難なことから、当面の間、「まちづくりネットワーク会議」の開催を見送ることとした。	各計画間の情報交換が各計画の推進に生かすという目的達成、及び参加者の多様なニーズ対応が困難なことから、当面の間、「まちづくりネットワーク会議」の開催を見送ることとした。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 5	「ふれあい活動」の拠点が民設民営を含め 20 箇所になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	2箇所	2箇所	2箇所	4箇所	4箇所
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	4箇所	4箇所	2箇所	2箇所	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

■ * 市民自治推進計画 《未策定》

◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	<p>逗子のまちづくりを担っているのは、市民一人ひとりです。市民が、自分のことだけでなく、他人や地域、自然のことを自分のことのように考え、行動することができる市民の姿が望まれます。</p> <p>また、逗子に住み、働き、学び、交わるあらゆる主体が、地域の一員として、考え、行動し、それぞれの関係の中で互いの理解を深め、担い合い支え合うことにより、心豊かな市民自治のまちを実現します。</p>
---------	---

施策体系別評価による総括コメント	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
<p>(仮称)自治基本条例検討事業は、検討を中止した。</p> <p>地域自治システム推進事業については、逗子小学校区の住民自治協議会の設立の目途が立っていない。</p> <p>市民協働推進事業については、(仮称)市民協働推進条例に係る調査・研究及び市民協働等推進懇話会による検討は、一旦凍結となっている。</p> <p>3つの事業のいずれもC評価であり、総括として令和4年度の取組の達成状況は、達成できなかったと考える。</p>	
個別計画の評価2(施策体系別)	C
審議会等が妥当と考える評価区分	

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	C (c)	(仮称)自治基本条例検討事業	(仮称)自治基本条例の検討を中止したことから、目的は達成できなかった。			1 (1)	《事業進行管理表欄再掲》事業評価については妥当と考える。
2	C (c)	地域自治システム推進事業	5つの小学校区中、住民自治協議会が4つ、住民自治協議会ブロック準備会が1つ設立されているが、目標の達成は困難であることから、目的は達成できなかった。			1 (1)	《事業進行管理表欄再掲》事業評価については妥当と考える。
3	C (c)	市民協働推進事業(市民協働推進条例の制定)	(仮称)市民協働推進条例に係る調査・研究及び市民協働等推進懇話会による検討は、2020年から凍結しており、目的は達成できなかった。			1 (1)	《事業進行管理表欄再掲》事業評価については妥当と考える。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

* 市民自治推進計画

【事業進行管理表】



事業名		(仮称)自治基本条例検討事業		
【総合計画の体系】		第5節 新しい地域の姿を示す市民主権のまち		
5-1 1		1 市民自治のまち		
所管名	1110	企画課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 4,657 千円
事業概要	目的	市民主権の考え方に基づいて自治体経営の基本理念や原則等について、市の姿勢等を明らかにする。		
	対象	市民等		
	手段	先行する事例等について調査研究を行う。(仮称)自治基本条例について市民の関心等を喚起する。本市の(仮称)自治基本条例の内容等について検討し、整理統合すべき条例等の検討を行う。検討会を設置し、条例案について審議を行う。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○(仮称)自治基本条例(案)の施行・運用	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	目標【2022(令和4)年度】		現状【2013年度末】	
	(仮称)自治基本条例が施行されている。		検討に着手していない。	

＜2022年度 進捗状況＞ 事業費(2022(令和4)年度実績額) 0 円

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加のワークショップ等(2016年度、2017年度に開催)の意見をもとに2017年度末に「(仮称)逗子市自治基本条例のワークショップ等まとめ素案」をまとめ、内容を精査することとなったが、作業が止まっている。 2020年度の進行管理において、総合計画審議会からの「今後の検討の方向性について市としての方針を定め、ペンディングではなく中止も選択肢として明確に示すべき」との意見を受け、検討作業が進む見込みが立っていないことから、現実実施計画の計画期間中は凍結とするという方針とした。 2022年度に総合計画中期実施計画を策定するにあたり、現段階で把握している短期、中期における市の課題の中において、他の課題に比して優先すべき課題とは言えないことから、本事業を中期実施計画には位置付けず、検討を中止することとした。
反省点・問題点	工夫している点

＜目標【2022年度】に対する評価＞

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
(仮称)自治基本条例の検討を中止した。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

＜審議会・懇話会等の意見＞

事業評価については妥当と考える。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(c) 本事業の目的は達成できなかった

* 市民自治推進計画

【事業進行管理表】



事業名		地域自治システム推進事業			
【総合計画の体系】		第5節 新しい地域の姿を示す市民権のまち			
5-1 2		1 市民自治のまち			
所管名	1310	市民協働課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 28,168 千円
事業概要	目的	身近な地域の課題は地域住民が自主的、相互扶助的に解決できるようにし、地域の個性や実情に応じた地域運営が行われること。			
	対象	市民			
	手段	小学校区を単位に、地域に住むすべての住民、地域で活動する各種団体等が参画して、地域が主体となる住民自治協議会を組織し、地域の課題解決のための計画を策定し、それに沿った事業などを行う。市は財政的な支援として交付金を交付するほか、人的な支援として地域担当職員を配置する。地域担当職員は、協議会の設立や円滑な運営、地域課題の解決に係る情報提供や助言などを行う。			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
	○住民自治協議会の設立・運営に係る支援	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
	○住民自治協議会連絡会の開催	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
	○地域自治システム推進会議等の開催	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】		
5小学校区すべての住民自治協議会において、地域の課題解決の取り組みが行われている。			住民自治協議会が設立されていない。		

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 3,006,000 円

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ○沼間、小坪、池子、久木の4小学校区で住民自治協議会が設立されており、各々活動を行った。 ○住民自治協議会連絡会を6回開催した。 ○(仮称)地域自治に関する条例検討懇話会を5回開催した。 ○地域づくり交付金の交付 沼間1,000,000円 小坪744,000円 池子616,000円 久木616,000円 逗子30,000円
------	---

反省点・問題点	工夫している点
---------	---------

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
5つの小学校区中、住民自治協議会が4つ、住民自治協議会ブロック準備会が1つ設立されているが、目標の達成は困難である。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

<審議会・懇話会等の意見>

事業評価については妥当と考える。 【事業の推進に係る意見・提案等】 ・条例がすぐに制定されないなら、要綱の協議会の認定案件に係るハードルを下げることを検討してほしい。	審議会等が妥当と考える評価区分 (c) 本事業の目的は達成できなかった
--	--

* 市民自治推進計画

【事業進行管理表】



事業名		市民協働推進事業			
【総合計画の体系】		第5節 新しい地域の姿を示す市民権のまち			
5-1 3		1 市民自治のまち			
所管名	1310	市民協働課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業	<input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 264 千円
事業概要	目的	市民協働のまちづくりを推進するための条例を制定する			
	対象	市民			
	手段	社会参加・市民活動ポイントシステムや協働事業提案制度、市民活動支援補助制度等市民協働を促進するためのシステム等を盛り込み条例化する			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
	○(仮称)市民協働推進条例の施行・運用	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】		
(仮称)市民協働推進条例が施行されている。			検討に着手していない。		

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 円

実施結果	—	
	反省点・問題点	工夫している点
反省点・問題点	(仮称)市民協働推進条例に係る調査・研究及び市民協働等推進懇話会による検討を一旦凍結したたことにより、進捗していないため。	工夫している点

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
(仮称)市民協働推進条例に係る調査・研究及び市民協働等推進懇話会による検討は、2020年に一旦凍結することとなった。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

<審議会・懇話会等の意見>

事業評価については妥当と考える。	審議会等が妥当と考える評価区分
	(c) 本事業の目的は達成できなかった

■第5節 取り組みの方向2

計画名: ずし男女共同参画推進プラン

誰もが尊重され、自由で平等なまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	その人の持つ「個性や固有の人格そのもの」や「能力」が尊重され、それらが十分に発揮できるまちづくりを推進し、誰もが、性別、国籍、障がい等によって差別されることなく人権が尊重され、自由で平等な参画が保障されているまちをめざします。
---------	---

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る総括コメント	幅広い年代に向けた啓発活動を継続して実施するとともに、パートナーシップ宣誓制度、デートDV予防ワークショップ等の新規事業に取り組み、目標の条例制定を2022年度に達成し、プランの改定を実施した。男女の地位の平等に対する市民の意識は目標達成が容易ではないが、新プランに基づき、継続して推進に向けて取り組むことが重要と考える。	個別計画の評価1 (8年間の取り組みに係る総括評価)	(A)
審議会・懇話会等の総括意見(個別計画の懇話会等が作成)	目的達成に向かい、地道な啓発に取り組み、条例の制定及びプランの改定を実施したことは評価する。今後は条例及び新プランに基づいて推進に取り組んでいただきたい。	審議会等が妥当と考える評価区分	(A)

①個別計画の評価2(施策体系別)(再掲)

個別計画の評価2(施策体系別)	A	審議会等が妥当と考える評価区分	A
-----------------	---	-----------------	---

②目標【2022年度】に対する評価

目標1	★(仮称)ずし男女共同参画推進条例が制定されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	後期基本計画の中で条例制定を目標として掲載	新たに策定したプランに条例制定を明記	情報収集に着手	条例制定に向け、情報収集を行った。	条例制定に向け、情報収集を行った。
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	条例制定に向け、情報収集を行った。	条例制定に向け、情報収集を行った。	条例検討部会を立ち上げ、条例案を作成した。	条例を制定した。	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 2	市が実施する「男女共同参画社会に関する市民意識調査・実態調査」において「男女の地位が平等になっている」と感じる人の割合が 25 パーセントを超えている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	22.2%	—	—	17.3%	16.3%
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	18.1%	21.4%	15.8%	17.1%	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

※「男女共同参画社会に関する市民意識調査・実態調査」は 5 年毎の調査。2014 及び 2020 年度以外は、「逗子のまちづくりに関するアンケート調査」により実施。

目標 3	人権(子どもの人権も含む)に関する講演会等への参加者が年 200 人になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	152 人	196 人	184 人	168 人	217 人
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	166 人	186 人	308 人	396 人	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

■ ずし男女共同参画推進プラン



◇ 個別計画の理念(最上位の目標) = 総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	その人の持つ「個性や固有の人格そのもの」や「能力」が尊重され、それらが十分に発揮できるまちづくりを推進し、誰もが、性別、国籍、障がい等によって差別されることなく人権が尊重され、自由で平等な参画が保障されているまちをめざします。
---------	---

施策体系別評価による総括コメント		審議会・懇話会等の総括意見（個別計画の懇話会等が作成）	
逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例案が市議会第2回定例会で議決され、条例を制定した。（施行日令和4年10月1日）また、ずし男女共同参画プラン推進会議においてずし男女共同参画プラン2022の改定について検討し、ずし男女平等参画プラン2030を策定した。		条例の制定及びプランの改定を行ったことは評価する。今後は条例及び新プランに基づいて推進に取り組んでいただきたい。	
個別計画の評価2(施策体系別)	A	審議会等が妥当と考える評価区分	A

◇ 施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	性に関する人権侵害の防止	男女共同参画プラン推進事業	性の多様性に関する市民及び職員向け講座を開催し、性の多様性について理解を深めることができた。	1			性の多様性については子どもよりも先に大人が学ぶべきであり、親や保護者向けに啓発活動を実施してほしい。また、企業や経営者向けの啓発の実施も検討すべきである。
2	働く場における男女平等と女性の経済的自立の支援	男女共同参画プラン推進事業	平成25年4月からパブリックサービス第2事業部発足以来、女性社員の割合は増加している。市は、筆頭株主として引き続き女性が就業しやすい職場づくりについて働きかけを行った。	1			ホームページなどで女性を積極的に募集していることや女性が働きやすい職場であること、どの職域も性別を限定していないことなどを広く周知すべきである。
3	家庭・地域活動と仕事の両立	男女共同参画プラン推進事業	若年層向けに男女平等参画啓発パンフレットを作成し、性別役割分担意識の解消等について啓発した。	1			子どもだけでなく親世代等様々な年齢層に見てもらえるように配布、周知すべきである。
4	男女共同参画社会を実現するための意識改革	男女共同参画プラン推進事業	対等な関係を構築することをテーマとした「デートDV予防ワークショップ」を市立中学校3校(逗子中学校、沼間中学校、久木中学校)に実施した。	1			若年層への啓発や年齢にあった取組を行うことが重要である。
5	女性のエンパワーメントによる男女共同参画	男女共同参画プラン推進事業	令和4年度の女性相談件数は447件だった。	1			継続的な支援を引き続き実施してほしい。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

特になし

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

特になし

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

・新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していた部分を今後は元に戻すとともに、動画配信など、現在の方法と異なる発信方法の検討が必要である。

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

特になし

ずし男女共同参画プラン

【事業進行管理表】



事業名		ずし男女共同参画推進事業		
【総合計画の体系】		第5節 新しい地域の姿を示す市民権のまち		
5-2 1		2 誰もが尊重され、自由で平等なまち		
所管名	1310	市民協働課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】 58,511千円
事業概要	目的	個人が尊重され、男女の人権が認められる平等な社会、女性のエンパワーメントにより男女共同参画を進める社会をめざす。		
	対象	市民		
	手段	ずし男女共同参画プランの評価を毎年行い、その中でも重点項目を選び出し、より深めた内容の評価を行う。(仮称)ずし男女共同参画推進条例を策定する。また、市民意識調査及びプラン改定を5年毎に行う。		
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	○ずし男女共同参画プラン推進会議の開催	→→→→→	→→→→→	→→→→→
	○(仮称)ずし男女共同参画推進条例の検討	→→→→→	○(仮称)ずし男女共同参画推進条例(案)の策定、議会提案	→→→→→
	○市民意識調査・実態調査の実施(5年毎)	○ずし男女共同参画プランの改定(5年毎)		
	○男女共同参画啓発事業(講座、講演会等)の実施	→→→→→	→→→→→	→→→→→
○女性相談	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】	
(仮称)ずし男女共同参画推進条例が制定されている。			検討に着手していない。	

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 5,313,512 円

実施結果	<p>○男女共同参画社会の実現を目指すために、広く市民・関係者の意見を聴取することを目的として、ずし男女共同参画プラン推進会議を5回開催し、ずし男女共同参画プランに基づき実施している事業についての評価と、ずし男女共同参画プラン2022の改定について検討し、ずし男女平等参画プラン2030を策定した。</p> <p>○ずし男女共同参画プランの改定案に対する庁内各課の意見を聴取することを目的として、男女共同参画連絡調整会議を開催し、意見を聴取した。</p> <p>○逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例案が市議会第2回定例会で議決され、条例を制定した。(施行日令和4年10月1日)</p> <p>○逗子市パートナーシップ宣誓制度を令和2年度から開始しており、宣誓件数は令和2年度から合計7件(内取り下げ1件)である。また自治体間相互利用協定を現在3市1町(横須賀市、鎌倉市、三浦市、葉山町)と締結しており、継続利用申請件数は1件である。</p> <p>○男女共同参画啓発事業:①デートDV予防ワークショップ(市立逗子・沼間・久木中学校の計3校で実施。合計267名参加) ②親子で学ぼう!子どもの護身法(2日間計親子30組72名参加)③DV防止啓発講座(7名参加)④性の多様性に関する市民、職員向け講座(50名参加)</p> <p>○男女平等参画啓発パンフレットを作成し、市立小学校及び中学校、市内各施設に配架した。</p> <p>○女性相談を開設した。(相談件数447件)</p>	
	反省点・問題点	<p>特になし</p> <p>工夫している点</p> <p>条例には多様な性を尊重する視点から、禁止事項にアウトティングやカミングアウトについての内容を盛り込んだ。</p>

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
逗子市男女平等参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例を制定した。	ア目標を達成できた		(a) 本事業の目的は達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

<p>今後は条例及び新プランに基づいて推進に取り組んでいただきたい。</p>	<p>審議会等が妥当と考える評価区分</p> <p>(a) 本事業の目的は達成できた</p>
--	--

■第5節 取り組みの方向3

計画名: 情報化推進計画《未策定》

情報化で、よりよく暮らせるまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	ICT(情報通信技術)を積極的に活用することにより、暮らしに関わるあらゆる分野において、より便利で質の高い暮らしができるまちをめざします。 また、情報化の推進により、あらゆる主体が、自らの活動を発信し、コミュニケーションを豊かにすることで、よりよくつながり、いきいきと暮らせるまちをめざします。
---------	--

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る総括コメント	「市の情報の入手方法」として「逗子市ホームページ」の割合が目標の50%を達成できなかったが、他3つの目標いずれも概ね達成できた。 総合的には「取組の方向」に向けたこの間の取組は、概ね達成できたと考える。	個別計画の評価1 (8年間の取り組みに係る総括評価)	Ⓑ
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)		審議会等が妥当と考える評価区分	

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分
---------------------	---	-----------------

②目標【2022年度】に対する評価

目標1	★(仮称)情報化推進計画が完成し、推進されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	策定に着手していない。	策定に着手していない。	策定に着手していない。	策定に着手していない。	策定に着手していないが、県の策定状況を注視している。
実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	プラン(案)の策定は完了しており、企画課に提示し、今後の進め方について調整中。	プラン(案)の策定は完了しており、企画課に提示し、今後の進め方について調整中。	(仮称)情報化推進計画に代わり、新たに方針を定め計画を作り直すこととした。	当面市が行うべき方針を定めた。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が妥当と考える評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 2	逗子市ホームページへの訪問数が年 100 万件になっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	1,006,845 件	1,371,737 件	1,270,352 件	1,474,247 件	1,412,553 件
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	1,558,780 件	1,979,258 件	2,486,319 件	1,950,590 件	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標 3	「まちづくりに関する市民意識調査」における「市の情報の入手方法」として「逗子市ホームページ」の割合が 50 パーセントになっている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	—	—	—	20.8%	20.8%
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	19.3%	24.8%	23.4%	19%	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

※「まちづくりに関する市民意識調査」は 2014 年度、2015 年度、2016 年度未実施。

目標 4	オープンデータの公開が開始され、二次利用が可能な形式で提供されている。				
実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	2種類	6種類	6種類	6種類	6種類
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	6種類	6種類	6種類	6種類	
目標に対する評価	<input checked="" type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	



■ * 情報化推進計画 《未策定》

◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	ICT(情報通信技術)を積極的に活用することにより、暮らしに関わるあらゆる分野において、より便利で質の高い暮らしができるまちをめざします。 また、情報化の推進により、あらゆる主体が、自らの活動を発信し、コミュニケーションを豊かにすることで、よりよくなが り、いきいきと暮らせるまちをめざします。
---------	---

<p>施策体系別評価による総括コメント</p> <p>(仮称)情報化推進計画の策定に代えて、「逗子市のデジタル・ガバメント推進についての方針」と、年度毎の「逗子市デジタル化実行計画」を策定したため、目的は概ね達成できたとみなせる。 総括として令和4年度の取組の達成状況は、ある程度達成できたと考える。</p>	<p>審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)</p>	
個別計画の評価2(施策体系別)	B	審議会等が妥当と考える評価区分

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	b (b)	情報化推進事業	(仮称)情報化推進計画の策定に代えて、「逗子市のデジタル・ガバメント推進についての方針」と、年度毎の「逗子市デジタル化実行計画」を策定したため、目的は概ね達成できた。		1 (1)		《事業進行管理表欄再掲》 事業評価については妥当と考える。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

* 情報化推進計画

【事業進行管理表】



事業名		情報化推進事業			
【総合計画の体系】		第5節 新しい地域の姿を示す市民権のまち			
5-3 1		3 情報化で、よりよく暮らせるまち			
所管名	1150 デジタル推進課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業		計画事業費【2015～2022年度】	168,992 千円
事業概要	目的	市民サービスの質や利便性の向上、行政事務の効率化を図る。			
	対象	市民、職員			
	手段	情報システムの運用管理、情報セキュリティの強化及び ICT を活用した地域情報化の推進を行う。社会保障・税番号制度への対応を行い、市民サービスの質や利便性の向上、行政事務の効率化を図る。ホームページやマイナポータル等を活用して、より効果的な情報発信を行う。			
年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	
	○情報セキュリティポリシーの運用	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
	○(仮称)マイ・ポータルを活用したサービスの提供	→→→→→	→→→→→	→→→→→	
	○(仮称)情報化推進計画の策定	○(仮称)情報化推進計画の推進	→→→→→	→→→→→	
目標【2022(令和4)年度】			現状【2013年度末】		
(仮称)情報化推進計画が完成し、推進されている。			策定に着手していない。		

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 9,450,200 円

実施結果	○情報セキュリティポリシーの運用として、情報セキュリティ研修を6回開催(89人参加)するとともに、外部監査、内部監査及び情報システム脆弱性検査を実施した。 ○マイナポータルの活用に関して、自己情報開示、マイナンバーカードの申請手続き及び、子育て関係手続のお知らせ等のサービスを受けることができる体制を維持するとともに、マイナポイント制度を利用する際に必要なマイキーID設定にかかるサポート体制を整えた。 ○前年度に令和3年度から令和7年度までを対象とする「逗子市のデジタル・ガバメント推進についての方針」を定め、この方針に掲げた取組みを実現していくために、(仮称)情報化推進計画の策定に代えて年度毎の「逗子市デジタル化実行計画」を策定することとした。	
	反省点・問題点	前年度は社会保障・税番号制度の研修を地方公共団体情報システム機構(J-LIS)の協力のもと企画検討したが、研修内容が本市の実情と合わず行えなかった。 マイナポータル等を活用したサービスを展開するためには費用がかかる。今後手続きの電子申請化を進めるうえで、費用対効果を含めた検討が必要となる。

工夫している点
 情報セキュリティ研修について、新型コロナウイルス感染症対策を念頭に、回数を増やして集合研修を実施した。
 デジタル化に向けたe-ラーニングを常勤職員対象に実施した。
 「逗子市のデジタル・ガバメント推進についての方針」を定め、この方針に掲げた取組みを実現していくために、(仮称)情報化推進計画の策定に代えて年度毎の「逗子市デジタル化実行計画」を策定することとした。
 電子申請を着実に進めていくため、進捗管理を毎月の部長会議で実施することとした。

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
(仮称)情報化推進計画の策定に代えて年度毎の「逗子市デジタル化実行計画」を策定した。	イ 目標を達成できなかった	(仮称)情報化推進計画の策定に代えて、「逗子市のデジタル・ガバメント推進についての方針」と、年度毎の「逗子市デジタル化実行計画」を策定し、 <u>進行管理を行い、推進を図った。</u>	(b) 本事業の目的は概ね達成できた

<審議会・懇話会等の意見>

事業評価については妥当と考える。	審議会等が妥当と考える評価区分 (b) 本事業の目的は概ね達成できた
------------------	---

■第5節 取り組みの方向4

計画名：国際交流推進計画《未策定》

世界とつながり、平和に貢献するまち



◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの 方向	ICT(情報通信技術)の進化や移動時間の短縮化など、科学技術のめざましい発展を背景に、世界との距離は加速度的に近くなっています。 市民の誰もが国際性を身につけ、池子米軍家族と培ってきた日米親善交流を礎に、さらに多くの世界の人々や都市との交流、協力を進め、逗子から世界に向けて、世界の恒久平和や調和ある発展についてメッセージを発し、貢献するまちをめざします。
-------------	---

◇個別計画の評価1 (①+②の評価)

8年間の取り組みに係る 総括コメント	国際交流や非核平和のテーマで様々な講座などを開催し、目標達成に向け順調に推移していたが、2020年からの新型コロナウイルス感染者が増加したことによる開催中止や縮小のため来場者は目標に届かなかった。3つの目標いずれも達成できなかった。 総合的には「取組の方向」に向けたこの間の取組の達成状況は十分とはいえない。	個別計画の 評価1 (8年間の取り組みに係る 総括評価)	◎
審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)		審議会等が 妥当と考える 評価区分	

①個別計画の評価2(施策体系別) (再掲)

個別計画の評価2 (施策体系別)	C	審議会等が 妥当と考える 評価区分
---------------------	---	-------------------------

②目標【2022年度】に対する評価

目標1	★池子米軍家族住宅内小学校との交流が年2回以上実施されている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	実施されていない。	実施されていない。	実施されていない。	実施されていない。	実施されていない。
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	実施されていない。	実施されていない。	実施されていない。	実施されていない。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目標2	★市が主催または共催の非核平和に関するイベントへの参加者数が年3,000人になっている。				
実績	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	2,260人	1,980人	1,494人	1,909人	1,928人
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	2,323人	約250人	約710人	約1,100人	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

目 標 3	国際交流イベントなど外国籍市民との交流の場が年2回以上実施されている。				
実 績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
	実施されていない。	2回実施 (主催1回、共催1回)	4回実施 (全て共催)	3回実施 (全て共催)	3回実施 (全て共催)
	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	
	1回実施 (共催)	実施されていない。	実施されていない。	実施されていない。	
目標に対する評価	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> (c) 達成できなかった		審議会等が 妥当と考える 評価区分	<input type="checkbox"/> (a) 達成できた <input type="checkbox"/> (b) 概ね達成できた <input type="checkbox"/> (c) 達成できなかった	

■ * 国際交流推進計画 《未策定》

◇個別計画の理念(最上位の目標)＝総合計画基本構想の「取り組みの方向」の評価

取り組みの方向	ICT(情報通信技術)の進化や移動時間の短縮化など、科学技術のめざましい発展を背景に、世界との距離は加速度的に近くなっています。 市民の誰もが国際性を身につけ、池子米軍家族と培ってきた日米親善交流を礎に、さらに多くの世界の人々や都市との交流、協力を進め、逗子から世界に向けて、世界の恒久平和や調和ある発展についてメッセージを発し、貢献するまちをめざします。
---------	---

施策体系別評価による総括コメント	審議会・懇話会等の総括意見 (個別計画の懇話会等が作成)
国際交流推進事業では、国際理解講座は開催したが、池子米軍家族住宅内小学校との交流を実施できなかった。 非核平和推進事業では、ずし平和デーは実施できたが、参加者数は目標に届かなかった。 総括として令和4年度の取組の達成状況は、達成できなかったと考える。	
個別計画の評価2(施策体系別)	C
審議会等が妥当と考える評価区分	

◇施策体系別の評価

施策体系	施策体系評価	事業名	コメント	事業評価の状況			審議会・懇話会等の意見
				(a)	(b)	(c)	
1	C (c)	国際交流推進事業	フェアトレードの認知度向上を目指し、若年世代をターゲットにプログラムを行ったが、池子米軍家族住宅内小学校との交流について、進めることができていないことから、目的は達成できなかった。			1 (1)	《事業進行管理表欄再掲》 事業評価については妥当と考える。
2	C (c)	非核平和推進事業	ずし平和デーは実施できたが、参加者数は目標に届かなかったことから、目的は達成できなかった。			1 (1)	《事業進行管理表欄再掲》 事業評価については妥当と考える。

◇審議会・懇話会等の意見

<各所管による事業進行管理表の評価状況についての意見>

<計画を越えた連携についての意見(他の計画や住民自治協議会等との連携)>

◇審議会・懇話会等の意見／【Action】の観点からの意見等

<事業の推進・改善に向けて意見・提案> (今年度、来年度に向けた意見)

<個別計画の今後の展開や策定に向けて考慮・検討を要する事項> (次期計画に向けた意見)

* 国際交流推進計画

【事業進行管理表】



事業名	国際交流推進事業		
【総合計画の体系】	5-4	1	第5節 新しい地域の姿を示す市民権のまち 4 世界とつながり、平和に貢献するまち

所管名	1310	市民協働課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業	計画事業費【2015～2022年度】	840 千円
-----	------	-------	--	--------------------	--------

事業概要	目的	日常的に国際交流する機会を増やし、市民の国際性を高める
	対象	市民、池子米軍家族住宅居住者
	手段	市民団体との共催により、外国籍市民との交流の場を設ける。池子米軍家族住宅内の小学校と逗子の小学校との交流を検討する。まちづくりトークで外国籍住民との対話を行う。国際理解講座を市民団体との共同により発展させる。単なる国際理解や交流ではなく、地球規模の社会的課題が地域課題とつながりがあることを気付かせる開発教育的な視点を取り入れ、国際的な視点を持ちながら地域のまちづくりに貢献できる人材を育成することを目指す。 池子米軍家族住宅居住者との交流をより活性化するための連絡会を開催する。

年度別計画	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度
	<ul style="list-style-type: none"> ○国際理解講座の開催(共催) ○国際交流イベントの開催(共催) ○池子米軍家族住宅内小学校との交流の実施 ○池子米軍家族住宅居住者との交流をより活性化するための連絡会の開催 ○国際交流や国際協力、平和のまちの在り方の検討、計画の策定 	→→→→→	→→→→→	→→→→→

目標【2022(令和4)年度】	現状【2013年度末】
池子米軍家族住宅内小学校との交流が年2回以上実施されている。	実施されていない

<2022年度 進捗状況>	事業費(2022(令和4)年度実績額)	314,200 円
----------------------------	---------------------	-----------

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ○国際理解講座の開催:フェアトレード啓発事業(逗子フェアトレードタウンの会との共催) ・市民一般対象として「フェアトレード連絡講座」を開催した。全4回 参加者延べ70名(Zoomでの参加者を含む) ○5月のフェアトレード月間に逗子フェアトレードタウンの会との共催で実施 ・フェアトレードに関する映画上映を実施した。参加者71名 ○ユースフェアトレード・リーダーシップ開発プログラムを実施した。参加者9名 ○市内の飲食店にフェアトレード食材を使用してもらいPRする「フェアトレードランチキャンペーン」を実施した。参加店舗21店 ○池子米軍家族住宅内小学校との交流の検討 ・情報収集にとどまり、具体の検討は行わなかった。
------	---

反省点・問題点	池子米軍家族住宅内小学校との交流について、進めることができていない。	工夫している点	フェアトレードの認知度向上を目指し、若年世代をターゲットにプログラムを行った。
---------	------------------------------------	---------	---

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
池子米軍家族住宅内小学校との交流の検討について、進めることができていない。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

<審議会・懇話会等の意見>

事業評価については妥当と考える。 【事業の推進に係る意見・提案等】 ・実施内容がフェアトレード事業に集中している点に違和感がある。事業評価を変えるまでには至らないが、目的の国際性を高めることに関しては進んでいる。 ・フェアトレードに限らず、逗子市における本質的な国際交流とは何かを考えて実施計画を考えてほしい。 ・リアルな交流で得られる体験こそ、本物の国際人を育てる事業になると考える。 ・「池子米軍家族住宅内小学校との交流」は逗子市らしさを実現できる国際交流なので開催実現を期待する。	審議会等が妥当と考える評価区分 (c) 本事業の目的は達成できなかった
---	--

*** 国際交流推進計画**

【事業進行管理表】



事業名 非核平和推進事業													
【総合計画の体系】 5-4 2	第5節 新しい地域の姿を示す市民権のまち 4 世界とつながり、平和に貢献するまち												
所管名 1310 市民協働課	<input checked="" type="checkbox"/> リーディング事業 <input type="checkbox"/> 基幹計画事業 計画事業費【2015～2022年度】 17,932 千円												
事業概要	目的 非核平和都市宣言自治体として、核兵器のない平和な地域社会の実現に向け、市民の意識を高める。												
	対象 市民												
手段	核兵器の恐ろしさや平和の尊さを継承し、平和意識の喚起を図り、多くの市民に平和について考えてもらう機会を提供する。												
年度別計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2019(令和元)年度</th> <th>2020(令和2)年度</th> <th>2021(令和3)年度</th> <th>2022(令和4)年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ピースメッセンジャーの派遣・報告会の実施 →→→→→</td> <td>→→→→→ ・ピースメッセンジャー30回目記念事業の検討 →→→→→</td> <td>→→→→→ ・ピースメッセンジャー30回目記念事業の検討、実施 →→→→→</td> <td>→→→→→</td> </tr> <tr> <td>○ずし平和デーの開催(共催) ・ずし平和デー10周年記念事業の検討 ○被爆者の会への支援 ○平和首長会議・日本非核会加盟自治体としての活動 →→→→→</td> <td>→→→→→ ・ずし平和デー10周年記念事業の検討、実施 →→→→→ →→→→→</td> <td>→→→→→ →→→→→</td> <td>→→→→→ →→→→→</td> </tr> </tbody> </table>	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	○ピースメッセンジャーの派遣・報告会の実施 →→→→→	→→→→→ ・ピースメッセンジャー30回目記念事業の検討 →→→→→	→→→→→ ・ピースメッセンジャー30回目記念事業の検討、実施 →→→→→	→→→→→	○ずし平和デーの開催(共催) ・ずし平和デー10周年記念事業の検討 ○被爆者の会への支援 ○平和首長会議・日本非核会加盟自治体としての活動 →→→→→	→→→→→ ・ずし平和デー10周年記念事業の検討、実施 →→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→
	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度									
	○ピースメッセンジャーの派遣・報告会の実施 →→→→→	→→→→→ ・ピースメッセンジャー30回目記念事業の検討 →→→→→	→→→→→ ・ピースメッセンジャー30回目記念事業の検討、実施 →→→→→	→→→→→									
	○ずし平和デーの開催(共催) ・ずし平和デー10周年記念事業の検討 ○被爆者の会への支援 ○平和首長会議・日本非核会加盟自治体としての活動 →→→→→	→→→→→ ・ずし平和デー10周年記念事業の検討、実施 →→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→	→→→→→ →→→→→									
目標【2022(令和4)年度】	現状【2013年度末】												
市が主催または共催の非核平和に関するイベントへの参加者数が年3,000人となっている。	1,800人												

<2022年度 進捗状況> 事業費(2022(令和4)年度実績額) 390,000 円

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ○逗子市被爆者の会(つばきの会)に補助金を交付し、「原爆と人間展」を実施した。参加者505名 ○日本非核宣言自治体協議会加盟自治体として分担金を支払った。 ○2022ずし平和デーは新型コロナ感染者数の増加により中止となった企画があったが、多くが実施できた。参加者595名
-------------	---

反省点・問題点	工夫している点
----------------	----------------

<目標【2022年度】に対する評価>

進捗状況	結果	評価を(b)にする理由	事業評価
ずし平和デーは実施できたが、参加者数は目標に届かなかった。	イ 目標を達成できなかった		(c) 本事業の目的は達成できなかった

<審議会・懇話会等の意見>

事業評価については妥当と考える。 【事業の推進に係る意見・提案等】 ・国際交流推進事業と関連して池子米軍家族住宅内の小学生を招いた交流イベントを開催してほしい。	審議会等が妥当と考える評価区分 (c) 本事業の目的は達成できなかった
---	--